

2023年度  
第6回 清流環境作文コンクール  
受賞作品集



さくらちゃん



けん  
健人くん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会  
イタイイタイ病対策協議会

後援／環境省 富山県教育委員会 富山県小学校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会





# 受賞作品集

## 神通川清流環境賞

### 第6回清流環境作文コンクール受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 江 添 良 作

令和6年元日に発生した能登半島地震は富山県においても経験したことのない震度5強の揺れとなって県西部を中心に甚大な被害が発生しています。また、昨年を振り返ってみますと各地で集中豪雨や猛暑など環境に関わる災害が頻発し日常生活を脅かしました。被災された多くの皆様に心よりお見舞いを申し上げます。当財団はイタイイタイ病の風化を防ぎ、先人のご労苦によって甦った神通川の清流と豊かな大地が再び汚染されることのないよう公害防止協定に基づき監視活動を今日もなお継続して行っている団体です。

平成29年度に「神通川清流環境基金」を創設し、富山県内の小学生を対象として「清流環境作文コンクール」を平成30年度から実施し、今年で6年目となりました。この作文コンクールが未来を担う子どもたちに郷土の豊かな自然環境と命の大切さなど、感性豊かな心をはぐくむ一助となれば幸いです。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校生活の諸活動が再開され大変お忙しい中であって、50校から1248点の応募があり、10名の審査員（氏名は別記）により慎重な審査を重ね、入選作品46点を作品集にまとめて発刊することができました。冊子は県内の全小学校に配布させていただきます。

受賞されました児童の皆様、ご父兄の皆様にご改めましておめでとうございます。さらには学級賞・学校賞を受賞されました小学校の先生各位には心より感謝と敬意を表します。

後援をいただきました富山県教育委員会、富山県小学校校長会、富山県小学校教育研究会、富山県PTA連合会をはじめ、昨年度より環境省の後援を賜りましたことに対し衷心よりお礼申し上げます。

次年度以降も同作文コンクールを実施いたしますので、関係各位のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



# 審査講評

第6回清流環境作文コンクール審査委員長

元富山国際大学子ども育成学部教授 水上義行

第6回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査委員会を代表しまして講評をさせていただきます。

清流環境作文コンクールは、悲惨な歴史をもつイタイタイ病を後世に語り継ぎ、風化させてはならないことを願い、清流及び自然環境の尊さをテーマに今年度で、第6回目を迎えております。

今年度の応募期間を、令和5年7月1日から10月20日にかけて設定し、富山県内の小学校にご案内をさせていただきますました。その結果、応募いただいた学校は、50校・応募総数1248名の素晴らしい作文を届けていただきました。

- (A) イタイタイ病に関する内容・・・・・・・・・・・・・・・・清流環境歴史賞
- (B) 自然・社会体験に関する内容・・・・・・・・・・・・・・・・清流環境体験賞
- (C) 持続可能な自然・社会への研究内容・・・・・・・・清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級・・・・・・・・清流環境奨励賞

応募作品は、どの作文も豊かな自然環境の中で生きることの尊さを、自らの調査や体験などから述べられておりました。このような子どもが一人でも多く育つことで、人間の尊厳や人権、命の尊さに対する望ましい生き方が芽生え、平和な社会の形成者としての資質が身についていくものと考えます。

審査をしながら、例年にも増して学校現場で取り組まれている確かな授業や、家庭での父母・祖父母との微笑ましい学びが目に見えました。指導いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

受賞作品は、引き続き受賞作品集として、県内全ての小学校に送付する予定になっています。公害学習、作文学習、SDGs・ESD教育などに活用いただければ幸いです。

終わりになりますが、第6回清流環境作文コンクールに、様々なご配慮をいただきました関係各位に厚く感謝申し上げます。



清流環境科学賞											清流環境体験賞											
高学年部門			中学年部門					低学年部門			高学年部門			中学年部門								
佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	
山口 真季	坂田 翔梧	神宮字 柑菜	山本 麻央	丸山 藍	清水 逞雅	高森創 士郎	白銀 寿明	中村 堯史	谷井 悠誠	椎名 琉愛	友崎 呉絲	川住 悠貴	青砥 千華	道古 陽俊	南田 衣吹	井下 結羽	廣世 真己	今村 陽菜	山本 悠仁	山本 六果	山本 奈乃葉	宮村 碧彩
富山市立光陽小学校	富山市立堀川小学校	富山市立堀川小学校	小矢部市立東部小学校	富山市立鵜坂小学校	富山市立新庄小学校	富山市立月岡小学校	高岡市立高陵小学校	舟橋村立舟橋小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山大学教育学部附属小学校	高岡市立下関小学校	南砺市立利賀小学校	富山市立新保小学校	富山市立芝園小学校	南砺市立利賀小学校	小矢部市立東部小学校	高岡市立高陵小学校	高岡市立野村小学校	高岡市立高陵小学校
五年	六年	六年	四年	三年	四年	四年	四年	三年	一年	一年	一年	二年	一年	二年	六年	五年	六年	六年	六年	四年	四年	四年
くらしの安心・安全のために	海洋酸性化による生物の危機	ささいな挑戦が環境を救う	生ごみを資源に変えるコンポスト	大雨の日にわたしが考えたこと	マイクログラスチックのおそろしさ	砂浜を歩くぼく	庄川のきれいな水	もう一度会いたい	めだかをかうのはむずかしい	あさがおのせいちょう	やせいかいこ てんさんをそだてる	ぼくのゆめ	きれいでたのしいかわをまもりたい	カナヘビをまもりたい	ゴミを減らそう	海の環境	小さな一歩から大きな力へ	利賀村の自然豊かな環境	来年もホタルが飛んでくれますように	田植え体験	わたしの好きなけしき	魚をつかまえた!
108	102	100	98	96	94	92	90	88	86	84	82	80	78	76	72	70	68	66	64	62	60	58

清流環境奨励賞  
 ◆学校賞・学級賞

学級賞			学校賞
南砺市立福野小学校	5年1組	5年2組	富山市立宮野小学校  南砺市立利賀小学校
南砺市立利賀小学校	1、2年	3、4年	
高岡市立高陵小学校	4年1組	4年2組	
高岡市立木津小学校	5年1組	5年2組	
射水市立金山小学校	3年1組		
富山市立光陽小学校	5年1組	5年2組	
富山市立中央小学校	5年1組	5年2組	
富山市立宮野小学校	5年1組	5年2組	
	3年1組	3年2組	
	1年1組	1年2組	
富山市立鶴坂小学校	5年1組	5年2組	
富山市立速星小学校	5年1組	5年2組	
富山市立新保小学校	5年1組	5年2組	
富山市立月岡小学校	6年1組	6年2組	
富山市立堀川小学校	5年1組	5年2組	
魚津市立経田小学校	4年1組		
			5年3組
			5年3組
			6年1組
			6年2組
			6年2組
			6年2組
			6年2組
			6年2組
			6年2組
			6年2組

## ◆応募学校一覧

黒部市	黒部市立たかせ小学校		
魚津市	魚津市立清流小学校	魚津市立経田小学校	
中新川郡	上市町立上市中央小学校	立山町立立山中央小学校	舟橋村立舟橋小学校
富山市	富山市立八幡小学校	富山市立倉垣小学校	富山市立新庄小学校
	富山市立水橋中部小学校	富山市立堀川小学校	富山市立山室小学校
	富山市立新保小学校	富山市立大久保小学校	富山市立速星小学校
	富山市立宮野小学校	富山市立神保小学校	富山市立八尾小学校
	富山市立中央小学校	富山市立光陽小学校	富山大学教育学部附属小学校
射水市	射水市立放生津小学校	射水市立新湊小学校	射水市立塚原小学校
	射水市立金山小学校	射水市立太閣山小学校	射水市立中太閣山小学校
	射水市立大島小学校		射水市立大門小学校
高岡市	高岡市立横田小学校	高岡市立木津小学校	高岡市立高陵小学校
	高岡市立野村小学校	高岡市立伏木小学校	高岡市立戸出西部小学校
氷見市	氷見市立比美乃江小学校		高岡市立下関小学校
小矢部市	小矢部市立石動小学校	小矢部市立東部小学校	
砺波市	砺波市立出町小学校	砺波市立砺波北部小学校	
南砺市	南砺市立城端小学校	南砺市立利賀小学校	南砺市立井波小学校
			南砺市立福野小学校

## ◆審査員一覧

水上 義行	元富山国際大学子ども育成学部教授
仲井 文之	元富山国際大学子ども育成学部教授
三原 茂	富山国際大学子ども育成学部教授
岩崎 直樹	富山国際大学子ども育成学部講師
宮城 信	富山大学教育学部准教授
鈴木 敬子	元射水市立作道小学校長
安元 恵子	元高岡市立東五位小学校長
牧野 宇子	元富山市立四方小学校長
城岸 毅	元南砺市立井波中学校長
河田 新子	元射水市立放生津小学校長

## ◆後援団体一覧

環境省 富山県教育委員会

富山県小学校校長会

富山県小学校教育研究会

富山県PTA連合会



# 清流環境歷史賞



\*低学年部門\*

優秀賞

川といっしょ

富山市立芝園小学校 二年

川原 かわはら  
綾斗 あやと

ぼくは、おばあちゃんと、『いっしょだよ』という絵本を読みました。

絵本の中には、森の中のいっしょが、たくさんでてきました。木は、お日さまといっしょ。花は、虫といっ

しょ。わた毛は、風といっしょ。たくさんがいっしょがありました。

そこでぼくは、川といっしょを考えてみました。川は、水やすなや石や岩といっしょ。川は、草や木やつぱといっしょ。川は、アブラゼミやクマゼミといっしょ。川は、魚といっしょ。川にもたくさんがいっしょがありました。

ぼくの大きさのおじいちゃんの家の前には、あくた川という川がながれています。春にはさくらの花がさいて、五月にはこいのぼりが千びき、川の上をおよいでいます。夏はセミとりができます。

あくた川も、花やこいのぼりやセミといっしょなんだなと思いました。川は、水がながれているところだと思っていたけれど、たくさん「いっしょ」があつ

て、たくさんのお人の生かすと、つながっているんだと思えました。

ぼくの行っている小学校のすぐそばを、じん通川がながれています。あくた川より、ずっとずっと大きな川です。八月一日のよる、かぞくで花火大会を見に行ってきました。つきからつきと花火が上がって、とてもきれいでした。

ぼくは、きよ年、千ばけんからひっこしてきたので、じん通川について、あまり知りません。おばあちゃんが、イタイイタイびょうや、と山大空しゅうの話をしてくれました。いつか、じ分ですらべてみたいと思えました。

じん通川も、「いっしょ」がたくさんあると思います。「いっしょ」をたくさん見つけて、川を大切に

きたらいいなと思います。



\*低学年部門\*

優秀賞

イタイイタイびょうと

じんづうがわ

富山市立宮野小学校 一年

中尾 なかお 優月 ゆうつき

ラジオたいそうのとき、ちくのこうみんかんにいくとせきひがありました。おかあさんに「これなに？」ときくと、「イタイイタイびょうのせきひだよ。」とおしえてくれました。

イタイイタイびょうは、ほねがもろくなってこっせつをくりかえし、みんな「いたい、いたい」といつていたから、イタイイタイびょうというなまえになったとききました。わたしのおねえちゃんは、ほねがもろく、おれやすいびょうきです。とてもきになって、イタイイタイびょうをしらべることになりました。

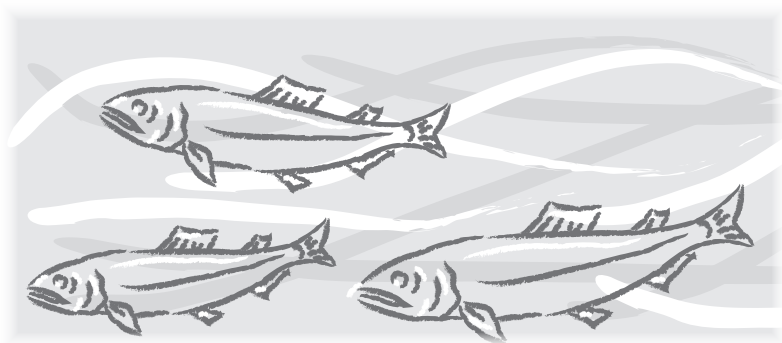
イタイイタイびょうは、カドミウムがげんいんで、はっしょうします。こうざんからでたカドミウムが、じんづうがわにながれて、かわやちいきをよこしました。よごれたみずを、せいかつようすいでつかったり、そのみずでそだったおこめなどをたべたりして、からだにカドミウムがたまつて、イタイイタイびょうをひきおこしたそうです。

わたしはこのはなしをきいて、「もういまは、おこめをたべてだいじょうぶ？」と、おかあさんにききました。おかあさんは、「いまはもう大じょうぶだよ。」

といたけれど、よごれたとちをきれいにするのは、  
たくさんのおかんと、おかねがかかって大へんだった  
そうです。

わたしのすんでいるちいきで、こんなびょうきでく  
るしんでいるひとがいたことをして、びっくりしま  
した。

わたしは、じんづうがわでそだったあゆが、おいし  
くて大すきです。もっとはやくうまれていたら、イタ  
イタイびょうになつていたのは、わたしだったかも  
しれません。これからも、きれいなみずがいつまでも  
つづいてほしいとおもいました。



\*低学年部門\*

佳作

## たのしいみずはどこから

射水市立大島小学校 一年

唐木 からき  
彩葉 いろは

「わあ、つめたくてきれい。」

なつやすみのあついひは、おとうさんといっしょに、  
おおきなビニールプールにみずをいれて、おにいちゃ  
んとはいるのが、とてもたのしい。

きれいなみずをホースでためているのをみて、この

たのしいみずは、どこからくるのか、おとうさんにき  
いてみると、

「おおきなかわのみずからくるんだよ。」

と、おしえてくれた。

わたしのすんでいるいえのまわりにも、たくさん  
かわがながれている。ほいくえんときは、おばあちゃ  
んといっしょにかわをのぞいて、さかながいることや、  
やまからうみにながれていることを、おしえてもらっ  
た。わたしが、

「かわがいっぱいあって、しあわせだな。」

といったときに、おばあちゃんが、

「いまは、きれいだけれど、ひとがごみをすてたり、  
よごれたみずをかわにながしたりして、よごしてし  
まったことがあるんだよ。」

と、おしえてくれた。

しらべてみると、いまもプラスチックのごみをすて

てしまったり、よごれたみずをそのままかわにながしたりして、かわのかんきょうをこわしていることがわかった。

わたしは、このたのしいみずをみらいにのこすために、かぞくときよりよくして、つぎのふたつのことを、ルールにきめた。

ひとつは、みずをだしっぱなしにしないことだ。はみがきやおふろのときは、みずをこまめにとめている。ふたつめは、かぞくいがいのひとにも、よびかけることだ。

ほんのちょっとしたこともしれないけれど、みんながつづけていけば、きつとみらいにも、このきれいなみずはのこりつづけるとおもう。

これからずっと、「きれいでたのしいみず」で、みずあそびができますように。



\*低学年部門\*

佳作

見てきたことを

みんなにつたえたい

砺波市立砺波北部小学校 二年

水戸 みと 椋太郎 りょうたろう

夏休みに母といっしょに、イタイイタイびょうしりょうかんに行ってきました。

なぜ行ったかというと、ぼくは、イタイイタイびょうしりょうかんのことばは知っていたけれど、どんなびょうし

なのかを、ぜんぜん知らなかったからです。

しりょうかんには、ジオラマやしんがてんじしであり、イタイイタイびょうが、どのようにして広まったのかや、どんなびょうしりょうかんのことをくわしくしることが出来ます。

イタイイタイびょうは、こう山からながれ出たカドミウムがげんいんでおこるびょうしりょうかんです。カドミウムがからだに入ると、ほねがもろくなってしまいます。びょうしりょうかんがすすむと、からだがいなくなったり、こっせつしやすくなったりします。かんじゃさんの中には、しんさつでうでをさわっただけで、ほねがおれてしまう人もいたそうです。すぐくわいびょうしりょうかんなあと思いました。ぼくは、いたみをそうぞうすると、つらくなりました。

また、イタイイタイびょうのかいけつのために、大へんなさぎょうや、水をきれいにするとり組みを、何



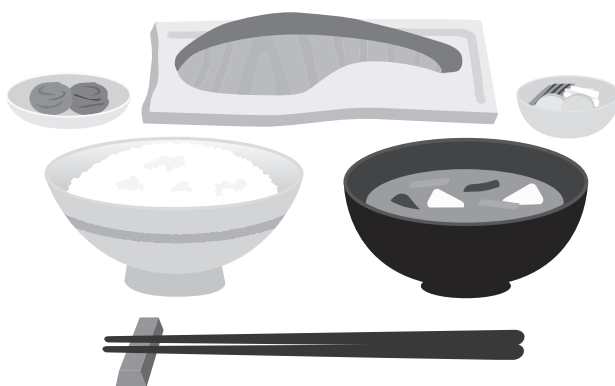
十年もつづけてきたこともわかりました。ぼくは、そのおかげで毎日おいしいおこめや魚を食べられるのだと思います。

家に帰ってから、祖母と妹にしりょうかんへ行ったお話をしました。祖母は、

「イタイイタイびょうについては、まだまだ知らないこともいっぱいあるね。今どわたしもしりょうかんへ行ってみようかな。」

と、言っていました。

今どは、家ぞくみんなでしりょうかんへ行っぺんきょうしたいなあと思いました。



\* 中学年部門 \*

優秀賞

イタイイタイ病を知ることの  
大切さ

高岡市立野村小学校 四年

大浦<sup>おおつら</sup> 深結<sup>みゆ</sup>

「イタイイタイ病資料館へ行こう。」

お母さんにそう言われたときに、昔の出来事なのに、  
どうして知らなければいけないのだろうと思っていま  
した。

イタイイタイ病は、かん者さんが、「いたい、いた  
い」と泣きさげぶことからついた名前で、神通川流域  
で起きた奇病です。息を吸っただけで、何千本もの針  
で体をさされるような痛みを感じると聞いたときに  
は、ぞっとしました。

私が資料館で心に残ったことは、二つあります。

一つ目は、イタイイタイ病は、かかった本人だけで  
なく、その家族も苦しみを負ったことです。

資料には、「周りの人から差別される」と書いてあ  
りました。私は、病気になっただけでも苦しいのに、  
差別までされ、さらに大切な家族も差別されるなんて、  
どんなに苦しく悲しいことなのだろうと、考えただけ  
でおそろしくて仕方がありませんでした。

とても痛そうな顔で苦しんでいるおばあさんの、写  
真の前まで来たときに、かわいそうで見えていられず、  
思わず泣いてしまいました。

二つ目は、病気の原因が、神通川の水だったことです。

資料館に入って、すぐにあった美しい神通川のジオラマ。稲を育て、魚を育て、そこに住む人々を育てていた大切な水に、工場のカドミウムが流されていたのです。日本を豊かにするための工業が、私たちのくらしや環境を汚す。私は、このことが、今の時代の地球温暖化の問題に似ているなと思いました。

今、豊かな暮らしをするために出された二酸化炭素が、気候に大変なえいきょうを与えています。今年の夏休みは、外で遊べないくらい危険な暑さが続いています。神岡鉱山がカドミウムを流すことをやめたように、二酸化炭素を出しすぎる生活を、やめなければいけないのではないかと思います。

初めは、イタイイタイ病について知ることはこわくていやだと思っていました。でも、知らなくてはいけ

ないという意味が分かりました。それは、こんなに悲しいことがもう二度と起こらないように、忘れないために、次の時代の人へ伝えていくことが大切だと分かったからです。

自分にできることは、まず知ることなんだと思いました。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

わすれてはいけない

### イタイイタイ病

氷見市立比美乃江小学校 四年

竹<sup>たけ</sup> 葵唯<sup>あおい</sup>

わたしは、夏休みに、イタイイタイ病について調べました。

イタイイタイ病は、岐阜県から富山県を流れる神通川の下流で、一九一〇年代から一九七〇年代ごろまで

発生した、日本で初めての公害病です。重金ぞくのカドミウムが、体内にちくせきすることで、じんぞうが悪くなったり、体中がいたくなくなったりする病気です。

病気が進んで、ほねがかたくなならない「こつなんかしょう」や、ほねがスカスカになる「こつそしょうしょう」になります。そして、ほねの形が変わったり、くしゃみをするだけでほねが折れたりします。かん者が、「いたい、いたい」と泣きさげぶことしかできなかったことから、「イタイイタイ病」という名前がつけられました。

かん者は、赤ちゃんをうんだ後の女の人に多く、最初は、女の人だけがなる病気だと考えられていました。赤ちゃんをうんだ後は、たくさんのえいようが体にとりこまれやすくなっています。だから、カドミウムも体にたくさんとりこまれて、イタイイタイ病になりやすかったのです。

その後、男の人も病気になるようになり、病気の原因がカドミウムだということもわかりました。

原因となったカドミウムは、上流の神岡鉱山からは出されたものです。神通川流いきの住民は、カドミウムをふくむ水を田んぼや畑で使ったり、台所で野菜をあらったり、料理に使ったりしていました。そのため、住民はカドミウムをふくむ水を飲み、米や野菜を食べることになり、やがて、カドミウム中どくになっ  
てしまったのです。

その後、さいばんになりました。会社はなかなかせきにんをみとめず、長い時間がかかったけれど、ようやく、公害とみとめられました。そして、ひがいに者は、ばいしょう金やしはらわれました。今では、おいしいアユがつれることで有名な神通川となりました。

イタイイタイ病は、カドミウムを流したことで起こり、下流に住んでいる人たちがその水を使い、苦しみ

ました。なにも知らなかった住民がひがいにあったので、とてもかわいそうだと思いました。しっかりと、工場からでるはい水について調べたりしたほうがよかったです。

みんなが使う水は、絶対にきれいでなければいけないと思います。



\* 中学年部門 \*

佳作

富山のわき水

高岡市立高陵小学校 四年

工藤 遙人

ぼくがすんでいる高岡市のちかくにある、わき水や富山の名水について調べました。

調べた場所は、との様清水、弓の清水、たん生水、孝子六兵えのかげなしの井戸、佐野のわき水、気多神社の清泉の六か所です。

さい初に、との様清水に行きました。ふく岡町にあるわき水で、え戸時代に、北りく道を通って長安寺で、かがのはん主が、休けいしたときに、のんだ水だそうです。でも、今はいんりょう水ではないそうです。

次に、高岡の佐野の農協の横にあるわき水に行きました。のめる水だったので、たくさんの人がくみに来ていました。つめたくて気持ちよかったです。

次に、い水市にある、たん生水に行きました。六百年前に、法華宗を開いた日隆聖人が生まれたときに、わきだした水と言われているそうです。すごきれいだったので、だいじにされているのだなと思いました。

その次に、くし田神社の近くにある弓の清水に行きました。昔、戦い合ったときに、弓でがけの下にうった矢のところから、出たわき水と伝えられています。高岡市の指定文化ざいににん定されています。平成の名水百選にも選ばれています。

次は、ふし木の気多神社にあるわき水のところに行きました。すごく急なところがありました。その急なさか道をかけおけると、気持ちよくて楽しかったです。そこは、神社が建てられる前から、わきでている清泉だそうです。

最後に、自分の家のすぐ近くにある、孝子六兵えのかげなしの井戸に行きました。かげなし坂にあることから、かげなし井戸とよばれていて、どんな日照りでも、かれることがないと言われています。この井戸は、約二三十年前に、親こうこうの六兵えがほった井戸だそうです。

六つのわき水を、ペットボトルに入れてもって帰りました。のめる水は、二か所だけでしたが、のんでみたらおいしかったです。のめない水は、ベランダで育てているいちごや、とうもろこしなどにあげたいと思います。

きれいで、ゆたかな水がたくさんある富山で生まれてきてよかったです。これからもこのきれいな水をよごさないようにしたいです。他の国の人たちにも、富山のおいしい水をのんでもらいたいです。





\* 中学年部門 \*

佳作

川を調べて分かったこと

富山市立大久保小学校 四年

鈴木 すずき  
健琉 たける

ぼくの身近な川は、神通川と常願寺川です。

神通川は、お出かけをするときによく通るし、最近  
は、お兄ちゃんがボート部に入ったので、送りむかえ  
やおうえんをしに行くようになったから、とても身近  
に感じています。常願寺川は、スイミングスクールへ

通うときに、毎週通る川だから、身近に感じています。  
神通川は、天気によって、水量やにがり方がちがっ  
ています。前に台風が来たときは、とても茶色く、木  
やごみなどが、たくさん流れていました。また、イタ  
イタイ病というとてもこわい公がいが、神通川で起  
きたことを知りました。これは、人が起こした病気で、  
今も、この病気で苦しんでいる人が、おられるそうで  
す。

常願寺川では、夏休みに、川で遊んでいる人を見ま  
した。常願寺川は神通川とくらべると、きれいで水量  
も少なく感じます。でも、常願寺川はあばれ川といわ  
れていて、昔は、たくさんの方が出るほどの、こう  
水や土砂さいがいがあったそうです。

ぼくが身近に感じていた川で、イタイイタイ病や土  
砂さいがいなどの、すごくこわい公がいやさいがい  
起きていて、とてもおどろきました。それに、川は、

ぼくたちの毎日食べているお米や野菜、魚や飲み水など、生活に深く関わりがあることも知りました。

そこで、ぼくたちにできることはないか考えました。まず、人が起こした公がいについて、ぼくたちにできることは、これからの未来に、二度とこんなつらくて悲しい思いをする人がいないように、イタイイタイ病というとてもこわい公がいがあったということ、わすれないで伝えつづけていくことです。

自ぜんさいがいについて、ぼくたちにできることは、起きてしまったときにそなえて、ひなん場所を調べておいたり、飲み水や食べ物、かい中電灯や土のうぶくろなどの防災グッズを、じゅんびしたりしておくことです。

ぼくは前に、大雨で川がはんらんしているニュースをテレビで見たことがあります。短い時間で、川の水量が何倍にも増えているのを見て、とても、こわくな

りました。そこで、ぼくは家にあったハザードマップで、家の周りを調べました。あぶない場所に色がついていて、すぐわかりやすかったです。

これからも、ぼくたちにできることを考え、行動して身近な川を大切にしていくことで、公がいや自ぜんさいがいなどのない、安心できるくらしを続けていきたいです。



\* 高学年部門 \*

## 最優秀賞

### イタイイタイ病を

### くり返さないために

射水市立中太閤山小学校 五年

長谷川 はせがわ 駿 しゅん

「駿はこの病気のこと、もう学校で習った？」

ニユースを見ながら母がぼくにたずねました。このとき初めてイタイイタイ病の名前を知りました。その印象的な名から、「ずいぶん痛みがある病なんだな。」

くらいにしか、想像が付きませんでした。そこで、この夏ぼくは、イタイイタイ病について調べてみることにしました。

まずは図書館で調べました。すると、川の水に混じったカドミウムという有害物質が原因だと分かりました。それを知ったぼくは、とてもびっくりしました。なぜなら、ぼくが大好きな魚、姉が大好きな米は、どれもきれいな水があってこそそのものだからです。富山の水の美しさは全国的に有名で、県の自慢です。富山の水からつくられた飲料水は日本中で飲まれています。「ぼくにとっての当たり前は、昔はそうではなかったのか。」そう思ったぼくは、今はきれいでおいしい富山の水が、人々を苦しめるほど、どのように汚染されてしまったのかを知りたくまりました。そこで、イタイイタイ病資料館に姉と行くことにしました。まず始めに、その名の通り、イタイイタイ病がどれ

ほど苦しいものなのかがよく分かり、本で調べて知っていたはずだったけれど、シヨックを受けました。息を吸うだけでおそってくる、針を千本刺されたような痛み、医者が脈を測ろうと手首を持っただけで折れるほど、もろくなった骨……。顔をゆがめ、痛みにたえるしかなかった女性の写真を見ただけで、ぼくは目をそむけたくなるような悲しみを感じました。

もう一つ驚いたことは、一つの会社の間違いが、多くの患者、その家族、治りようを担当した医者苦しめたということです。では、その会社やカドミウムが単に悪いのでしょうか。母と資料館でもらったパンフレットを読むと、そうとばかりは言えないこともわかりました。

カドミウムはパソコンや自動車の一部に使われており、ぼくたちの生活に欠かせないものなのです。公害の解決の難しさを感じました。会社と県、住民が協力

して調査をしたり、汚された土をきれいにしたりして、努力していることも知りました。これらは資料館へ行ったからこそ分かったことです。

さらに調べたいことも増えました。患者さんから生まれた子どもにも、しょう状が現れることはあるのか、イタイイタイ病を完全に治す方法が、今の医りようにはあるのだろうか、などということです。そして、自分でできることは何なのかを考えました。それは、イタイイタイ病が二度と起こらないよう、ぼくの学びや考えを多くの人に伝えることだと思いました。

小さなことでも、社会科や総合の時間にクラスのみんなに伝えることで、大好きな魚やお米を安心して食べられる、ぼくが大好きな、自まんの富山県を守っていきたいです。

\* 高学年部門 \*

優秀賞

イタイイタイ病の真実  
〜平和なくらしを続けるために〜

富山市立堀川小学校 五年

岩村 いわむら  
匠 たくみ

「イタイイタイ病」、ぼくは名前を聞いたことはあるけれど、いたみがある病気だろうということしか知りませんでした。

しかし、校外学習でイタイイタイ病資料館へ行った

ことにより、イタイイタイ病には、たくさんの真実があることが分かりました。

まずおどろいたことは、そのいたみの強さです。この病気になると、じんぞうにしよう害が出たり、ほねがもろくなってしまったりする、くしゃみや、歩くだけでも、こっ折ってしまうそうです。ぼくもこっ折をしたことがあって、そのいたみが分かるので、かん者さんのことを思うと心がいたみました。「息を吸うだけで、はりが千本ささったようだ。」と言われていて、イタイイタイ病という病名には、かん者さんの苦しみがこめられているんだということを感じました。

この大変な病気の原因は人災です。岐阜県にある神岡鉱山が垂鉛という金属から不純物を取りのぞくときに流した水の中にカドミウムがふくまれていました。その水が、神通川の近くに住む人たちの生活用水として、利用されていたのです。

そのカドミウムが体内に入ってちく積し、カドミウム中どくとなり、イタイイタイ病のしようじょうが現れます。

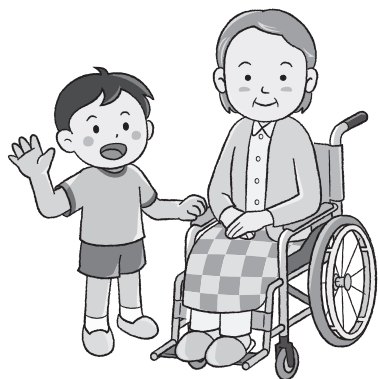
そして、ぼくは学習を進めていくうちに、もう一つの人災があることに気が付きました。それは、周りの人のへん見です。イタイイタイ病というだけでも、十分辛いのに、周りの人からは、「あの家は呪われている。」「前世で悪いことをしたからだ。」などと、とてもひどいことを言われていたそうです。

もし、周りの人たちが正しい知識を持ち、思いやっけて接していれば、かん者さんやその家族は、少しでもすくわれたのではないかと思いました。

正しい知識を持つということは、真実を知ることです。それを知るために、イタイイタイ病資料館や語り部の人たちがいる、ということが分かりました。このような悲しいことを二度とくり返さず、平和なく

らしを続けるため、ぼくにできることは、安心・安全な水を飲んでいることに感しゃし、水を大切に使うことです。

そして、うわさ話だけを信じないで、自分の力できちんと調べることです。こまっている人がいたら、手を差しのべられるようになりたいです。



\* 高学年部門 \*

優秀賞

イタイイタイ病のつらさを

未来へつなぐ

富山市立堀川小学校 五年

姫野<sup>ひめの</sup> 葉央<sup>かお</sup>

「意識は正常なまま弱っていき、死んでしまう。」

私は、イタイイタイ病資料館でこの言葉を聞いたとき、「どうして何も悪いことをしていない人が、長い間、つらい痛みにたえなければいけないのだろう。」

と、思いました。

病気というのは、そのような場合も多いことは知っているけど、身長が三十センチメートルもちびんだ人や、七十二かしょのこっ折をした人がいることを知り、ますますその思いは強くなりました。

てん示室には、実際にイタイイタイ病かん者が話されたことが書いてあり、その中のひとつひとつにむねが痛くなりました。「特に、息を吸うとき、針千本か二千本で刺すように痛いんです。」という言葉を見たときは、いかにイタイイタイ病がつらい思いをするおそろしい病気なのかということがよくわかりました。

また、「痛くて痛くてかなわんで、はってでも行けりゃ、川でも入って死ぬんやけれど。」という言葉に、私ははっとしました。イタイイタイ病になってしまった人は、自分が川へ入って死にたくても、いたみがおそいかかり、動きたくても動けないじょうきょうにある



ることに、そのとき初めて気が付きました。私は、「イタイイタイ病になってしまうと、つらい痛みにも自由をうばわれてしまうのか。」と思いました。

イタイイタイ病は、近くの鉾山からはい出されたカドミウムが原因で、川を流れてきたカドミウムの混じった水を飲んだり、その水で汚染された農地で育った米を食べたりして、広がっていきました。

かん者やその家族、地いきの人々にとっても苦しい日々が続き、その後、地いきの人々が力を合わせ、原因をつくった会社に対してさいばんを起こしました。そして、さいばんで勝利しました。しかし、イタイイタイ病のかん者の痛みはなくなったわけではありません。

私はイタイイタイ病資料館に行き、多くのことを知りました。イタイイタイ病はまだ完全に無くなっていないという事実も知りました。

だから、二度と同じ痛みを味わう人が出ないように、このことを未来へつないでいき、この先、公害で苦しむ人が出ないようにしたいです。



\* 高学年部門 \*

## 優秀賞

### イタイイタイ病資料館を訪問して

富山市立堀川小学校 五年

舟崎 ふなざき 知世 ともよ

七月二十一日に、イタイイタイ病資料館に、社会見学に行きました。

イタイイタイ病は、神岡鉱山から出たカドミウムが原因です。神岡鉱山では垂鉛や鉛を取るときに、いらなくなったカドミウムを、神通川に流していました。

カドミウムが混ざった水は白くにこります。川の近くに住んでいて、川の水を生活に活用していた人たちが、病気になるました。

当時は、イタイイタイ病の原因も、治りよう法も分からず、病気になっていない人は、かん者さんに対して、悪いことをしていたから病気になったんだと差別しました。原因が分からないことで、人々が不安になり、おそろしいことが起きたのだと思います。

イタイイタイ病のかん者のことを、大上久彦さんが話してくれました。大上さんのおばあさんが、かん者だったそうです。子どもが十一人いて、くらしにはかかせない人でした。

イタイイタイ病になると、骨が弱くなります。骨がすかすかになって、折れやすくなります。大上さんのおばあさんは、骨ばんに近いふとももの骨が折れて、こしが曲がってしまいました。おばあさんが、「いたい、

「いたい」と言うので、家族が心配してさすってあげようとしたら、

「あなたたちに体をさわられると、今以上にいたくないから、なでないでいいっちゃ。」

と、言ったそうです。

おばあさんが亡くなって、家族の人たちは、「これでもういたくないから、楽になったかね。」と、大上さんが話したのを聞いて、私もつらくなりました。

イタイイタイ病は、長い間、原因がわかりませんでした。したが、医者萩野昇先生が、カドミウムが原因であることを、つきとめて発表しました。かん者さんたちはそれを知って、神岡鉱山の持ち主である、三井金属鉱業を裁判でうったえました。裁判は長くかかりましたが、かん者さんたちが勝つことができました。これは、日本で初めて住民が会社をうったえて、勝つことができた裁判だそうです。

わたしはイタイイタイ病資料館で、いろいろな話を聞きましたが、いちばん心に残ったことは、大上さんのお話です。子どもが十一人いて、家族のくらしにかかせないお母さんが、病気で苦しめられているから、本人もつらかったと思うし、それをかん病する家族の人たちも、とても大変だったと思います。もし、こんなことが自分に起こってしまったらと思うと、とてもおそろしいです。

資料館の人の話では、今もイタイイタイ病のかん者がいるそうです。このような公害が二度と起こってほしくない、強く思いました。

\* 高学年部門 \*

佳作

みんなの勇氣

富山市立宮野小学校 六年

桐井 哉

「神通川は、きれいだな。」最初はそう思っていました。  
イタイイタイ病について調べる前までは、イタイイ  
タイ病はカドミウムが原因ということは知っていたけ  
れど、もう患者もいなくなり、完全に終息している病  
気で、「そんなに怖くない病気だ。」と、思っていました。

しかし、イタイイタイ病資料館に行ったら、違いま  
した。展示室に並ぶ多くの写真には、患者さんの足の  
骨が変な方向に曲がっている写真や、腰がすごく曲  
がっている写真などがありました。写真を見たあとは、  
「こんなに残酷で、しかも、治す方法はなかった病氣  
を、そんなに怖くない。」と、思っていたことを後悔  
しました。

さらに調べるうちに、イタイイタイ病は、辛いこと  
に加え、他の住民からの誹謗中傷や差別をされていた  
と、遺族の方がおっしゃっていました。具体的には、「貧  
しくて食べるものも食べてない。」や、「病氣がうつる  
かもしれないから、あの家から嫁をもらわれんし、嫁に  
も行かせられん。」など、こういった陰口が飛び交っ  
ていました。

しかし、それに屈することなく、裁判で戦おうと  
言った人がいます。その人は小松義久さんです。小松

さんは、祖母がイタイイタイ病にかかったことから、イタイイタイ病対策協議会初代会長になり、カドミウムを流した三井金属鉱業を相手に、裁判で戦おうとおっしゃった方です。

最初は、地域の患者さんの遺族から、「大企業相手に勝ち目はあるのか。」と言われていましたが、小松さんが、「裁判に負けたら町を出なくてはならない。でも、やるしかないでしょう。未来の子どものために。」と言って、裁判をすることに賛成してもらいました。

そしてついに、イタイイタイ病対策協議会が、三井金属鉱業を相手に、裁判を起こしました。このような遺族や小松さんの勇気もあり、日本初の公害病の裁判で、住民側が全面勝訴しました。

裁判の翌日、十一時間かけて、「イタイイタイ病の賠償に関する契約書」、「土壌汚染問題に関する契約書」、「公害防止協定書」を結びました。

今でも、毎年、イタイイタイ病対策協議会の方が、神岡鉱業所に、立ち入り調査をしています。

最初は、イタイイタイ病は「怖くない」と思っていたけれど、今は違います。地元の遺族の方々が中心になって、裁判を起してくださったから、今の神通川がきれいなのです。

そのことに感謝してこれからいろいろな人に、イタイイタイ病の怖さや、遺族の方々の勇気を伝えていきたいです。

\* 高学年部門 \*

佳作

取りもどした豊かなお米

富山市立鵜坂小学校 五年

宮腰みやこし隆弘たかひろ

皆さんは、イタイイタイ病という病気を知っていますか。

ぼくは、婦中町にイタイイタイ病という病気があったと知って、とてもおどろきました。自分の町で起こったイタイイタイ病に、興味がわいたので詳しく調べて

みることにしました。

イタイイタイ病について調べてみると、その病気は、日本四大公害病であることが分かりました。日本四大公害病とは、水また病、新潟水また病、四日市ぜん息、イタイイタイ病で、日本で起きた多くのひがいを出した病気のことです。

イタイイタイ病という名前を初めて聞いたとき、なんでイタイイタイという言葉がついているのか、ぎ問に思いました。すると、かん者さんが、「いたい、いたい」と叫んでいた様子から、イタイイタイ病という名前がついたそうです。

イタイイタイ病は、「カドミウム」という、人に有害な物質が原因だと分かりました。岐阜県の神岡鉱山から流れ出た、カドミウムが神通川をおせんし、そのおせんされた水を生活に取り入れることで、じんどうに障害が起きました。イタイイタイ病になると、息を

するだけで、全身が二千本の針でさされたようないたみにおそわれます。さらに、少し動いただけでほねがおれ、その結果、身長もちぢむということが分かりました。イタイイタイ病になる人は主に女性が多く、その中でも、子供を産んだことがある、三十代以上の人が多いということもわかりました。

一九六八年に、イタイイタイ病になった人のい族たちの苦労の末、イタイイタイ病訴訟弁ご団が結成されました。それから三年たった一九七一年に、控訴しんが始められました。そしてついに、一九七二年八月に、イタイイタイ病第一次控訴しんで、住民たちが完全勝利しました。

カドミウムに汚染された田は、今はどうなっているのか、ぎ間に思いました。なぜなら、田にカドミウムが今もあつたら、美味しいお米を食べることができないのではないか、と考えたからです。

そのことを調べてみると、まず、カドミウムで汚染されてしまった土をけずり取って、みぞに埋めこみ、汚染された土があがってこないように、こうばん土という土でブロックします。その上に、別の土地から運んできたきれいな土をのせます。こうすることで、安全なお米を作ることができる大地に、生まれ変わったそうです。

ぼくは、イタイイタイ病を調べてみて、昔の人の苦労があつて、ゆたかな水を飲んだり、美味しいお米を食べたりできるんだなと実感しました。





The background features several overlapping, wavy, light gray lines that create a sense of movement and depth, resembling water or flowing energy. These lines are centered horizontally and extend across most of the page width.

# 清流環境體驗賞

\*低学年部門\*

最優秀賞

かわあそび

富山市立宮野小学校 一年

松本 まつもと  
煌佑 おうすけ

ぼくは、三さいのとき、はじめてじょうがんじがわにあそびにいきました。それから、まいとしのあそびになっています。

かわにつくと、ざあーっというおとがするよ。

かわは、きらきらひかってみえたよ。

あしをつけてみたら、すこしあたたかい。でも、ど

んどんすすんでひざぐらいのところまでいくと、とっ

てもつめたくてからだがぶるっつとふるえたよ。

そおっとおしりまではいったら、もっつぶるっつとふ

るえたよ。

いっきにかたまではいってみたら、とつてもきもち

がよかったよ。

みずのなかをみたら、ぼくのあしがよくみえた。い

しもよくみえた。

すいちゅうめがねをつけてもぐったら、みずのなか  
が、きらきらしていたよ。

おさかなもおよいでいたよ。

つかまえようとおもったら、いしのしたにかくれた。

ぼくのことみえているのかな。ぼくも、おさかなみ

たいにはやくおよげるようになりたいな。



\*低学年部門\*

優秀賞

さかなとのふれあい

富山市立宮野小学校 一年

上原<sup>うえはら</sup>  
叶<sup>か</sup>愛<sup>ら</sup>

わたしは、なつやすみにキャンプにいきました。そこは、とてもきれいで、さかなやえび、あさり、かに

がちかくでおよいでいました。

こんなにちかくでみるのが、はじめてでうれしくなり、あみでさかなやえびをつかまえました。うみではスイスイもちよさそうにおよいでいたので、つかまえるのもたいへんでした。

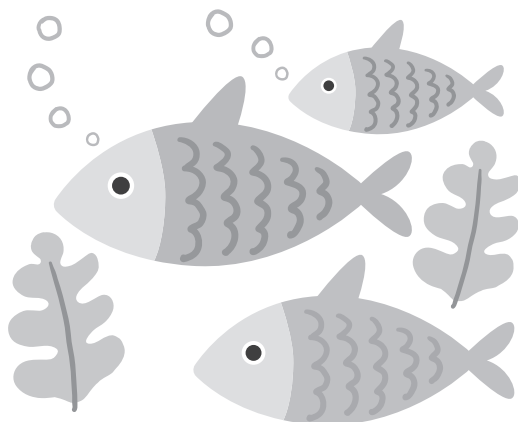
バケツのなかのえびやさかなは、じっとしていて、まったくうごきません。それを見て、せまいのかなあ、うみがいいのかなあ、ほかのさかなといっしょがいいのかなあ、わたしはいろんなきもちになりました。

ほんとうは、いえにもってかえろうとおもったけれど、スイスイおよぐさかなをおもいだして、うみにもどそうときめました。うみににがすと、まだ、えびや

さかなはきもちよさそうに、スイスイおよぎはじめました。

やっぱり、うみがいちばんすきなばしょなんだなあと、おもいました。そのあと、わたしは、さかなやえびと、またいっしょにおよぎました。わたしのまえにおおきなさかながおよいで、さいしょはこわかったけれど、さいごはいっしょにおよぎました。

とてもたのしいなつのおもいになりました。



\*低学年部門\*

優秀賞

よう虫からそだてたカブトムシ

富山市立堀川小学校 二年

坂田<sup>さかた</sup> 樹里<sup>じゅり</sup>

きよ年の十一月、学校のカブトムシクイズラリーで、ぜんもん正かいして、カブトムシのよう虫を二ひき、プレゼントでもらいました。

わたしは、学校のクラスのみんなど、そだてたかったので、たんにんの先生におねがいして、教室でそ

だてることにしました。

生きものを自分でそだてるのが、はじめてだったので、おにいちゃんに、そだて方を教えてもらいました。よう虫のあいだは、土がかわいたら、きりふきをして、フンがふえたら、はん分だけ土をこうかんしました。ぜんぶ土をこうかんしないりゆうは、なれている土をのこした方が、ストレスがたまらないと、教えてもらったからです。

五月、さなぎになるころは、よう室がこわれやすから、ケースをうごかさないようにしました。生きているか、かくにんしたかったけれど、がまんしました。

六月のおわりごろに、とうとうせい虫になりました。先生がひる休けいに、土からツノが見えているのはつけんしました。わたしは、とてもうれしかったです。クラスのみんなども、「すごい。」「わーい。」

と言って、教室ぜんたいがもり上がりました。

つぎの日のあさ、もう一ぴきも土から出てきました。メスでした。わたしは、

「カブトムシ、また出てきたよ！」

と、クラスみんなに、大きなこえで言いました。わたしは、オスが出てきたときと、同じくらいうれしかったです。二ひきともせい虫になって、よかったです。

今は、まい日ゼリーをあげたり、土にきりふきをしたりしています。ゼリーにかおをつっこんで、たべているところがかわいいです。

夏休み中は、わたしのいえにつれてきました。大切にそだてて、二学きに、また学校につれていって、クラスみんなに見せたいです。



\*低学年部門\*

佳作

ミニトマトのでんご

富山市立宮野小学校 二年

高畠<sup>たかばたけ</sup> 花帆<sup>かほ</sup>

わたしは、学校のじゅぎょうで、やさいをそだてました。

やさいは、ピーマン、きゅうり、ミニトマトからえらぶことができましたが、わたしは、トマトが大好きなので、ミニトマトをそだてることにしました。

ミニトマトのなえは、はじめ、黒いポットにはいつていたので、はちに土をいれて、ポットのなえをうつしました。水は、朝、学校に行ったときあげました。いつ水をあげるのか分からなかったけれど、どんどん大きくなってくれたのでうれしかったです。

なえがすこしそだってから、しちゅうもたてました。しちゅうをはちにたてるのは、大へんでした。

はじめは、小さななえだったミニトマトが、だんだん大きくなって、はっぱもたくさんふえました。黄色い花が咲いたあと、みどりのみがたくさんできて、赤いみになりました。そだったミニトマトをたべてみたら、あまずっぱかったけれど、おいしかったです。

土をいれたり、毎日本水をあげたり、しちゅうをたてたりするのは大へんだったけれど、赤いみができたくきは、とてもうれしかったです。

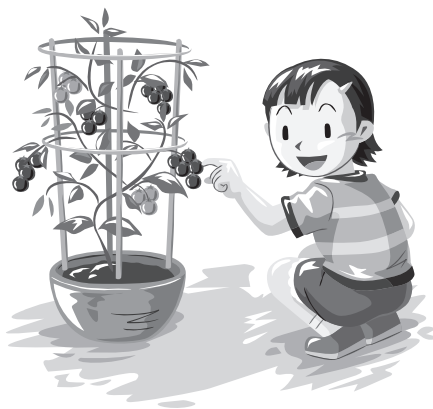
ミニトマトを家にもってかえって、かぞくみんなに、



ミニトマトをたべてもらいました。「おいしいよ。」と言ってもらえて、うれしかったです。たくさんみがかきたので、サラダにしたり、カレーにいれたりしました。

わたしがそだてたミニトマトは、お店にうっているミニトマトよりも、小さかったです。みが大きくなるように、はっぱをへらしたり、たいようの光があたるところにおいてみたりしましたが、それでも、みは大きくなりませんでした。お店のようなミニトマトにするのはむずかしかったです。

毎日、わたしがたべているやさいも、だれかがいっしょうけんめいつくってくれたやさいだと思うので、ありがとうのきもちで、のこさずたべようと思います。



\*低学年部門\*

佳作

## たのしかった海のキャンプ

富山市立宮野小学校 二年

和田<sup>わだ</sup> 音羽<sup>おとは</sup>

八月五日から一ぱく二日で、石川けんの大しまキャンプじょうへ、かぞくでキャンプに行きました。とてもあついい日だったけれど、少しかぜがふいていて、気持ちよかったです。

テントやタープのじゅんぴをして、みんなで海に入

りに行きました。すなはまや海水がキレイでびっくりしました。海水はすきとおっていて、魚がおよいでいるのも見えました。

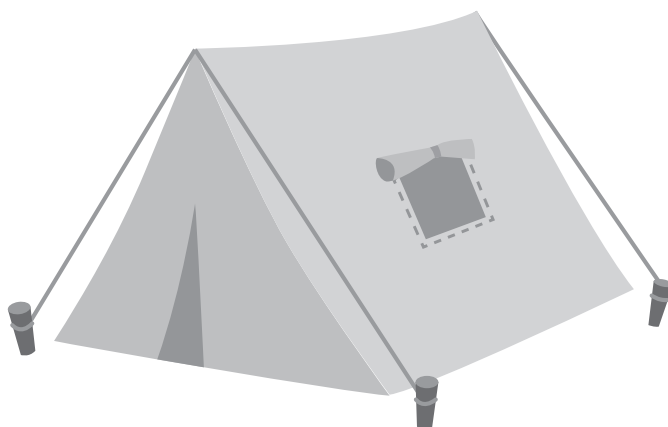
すなはまには、ゴミが少なくてすながさらさらしていました。わたしは、今まで海に何回か行ったことがあるけれど、こんなにキレイで気持ちいい海は始めてでした。どうしてこんなにキレイなんだろうとふしぎに思いました。ほかの海もこんなにキレイだったらいいなあと思いました。

トイレに行ったときに、海のごみゼロうんどうのチラシがはってあるのを見ました。ごみゼロうんどうのおかげで、海やすなはまがキレイだということがわかりました。とてもステキなとくみで、さんかしてキレイな海をまもりたいと思いました。

つぎの日の朝には、地引あみ体けんをしました。みんなであみを引っぱって、たくさんのキスやカレイ、

クロダイがとれました。そのあと、とれたキスのからあげをたべました。とてもおいしかったです。

また、海でキャンプしたいです。そのときも、海がキレイだとうれしいので、海だけじゃなくて、町のみゼロうんどうを心がけたいです。



\* 中学年部門 \*

最優秀賞

守ろう、きれいな海

氷見市立比美乃江小学校 四年

徳前 とくまえ  
映俐 えりい

わたしの家の前には、地元でも有名な松田枝浜という海岸があります。海水浴だけでなく、散歩やジョギングなども楽しめるすてきな場所です。

でも最近、すなはまに、ひょう着ゴミが散らんでいる所もあり、悲しくなることもあります。どこか

らこのゴミが流れてくるのか、だれがゴミすてているのか、いつもふしぎに思います。

わたしのそ母は、魚屋をしています。毎朝、市場へ行き、新せんな魚を仕入れてきます。そ母がお客さんに、

「魚がだんだんとへってきているし、キズがついている魚もいるなあ。」

と、言っているのを聞いたことがあります。今まで、そ母が言っていることを、何気なく聞いていたわたしですが、最近、家の前の海を見ると、そ母が言っていた「魚がへっている。」の原いんの一つは、ゴミなどによる、海洋おせんではないかと思いました。人間がすてたゴミを魚が食べて、その魚をわたしたちが食べていると思うと、こわいと思いました。

前にテレビを見ていたら、世界では、海洋おせんが深くくな問題となっていると、とりあげられています

た。内ようはむずかしく、よく分からなかったけれど、このまま何の対さくもしないと、海洋に住む魚などの生物よりもゴミの方が多くなるという海洋おせんにより、住みづらいかんきょうができてしまい、ゴミや油、化学物しつを取りこむことで、大量に死んでしまう生物もでてくると、言っていました。そのとき、母に、「魚などいなくなったら、ばあちゃんの魚屋はどうなるの?」

と、聞きました。小さいときから店に魚がいるのがあたり前と思っていたので、魚がいなくなったらと思うと、ふ安になりました。そんなわたしに、母は、

「日ごろゴミの分別やリサイクルができる物はさい利用するなど、ちょっとしたこと魚などを守るよ。」

と、教えてくれました。

コロナウイルスの感せんがかく大している今、マス

ク、テイクアウト用のよう器などのゴミがふえていきます。ゴミを出さないということはむずかしいですが、わたしたちには、出たゴミをうまく工夫してへらすことはできます。そして、海をきれいにできるのも、わたしたちです。

魚が住みやすいかんきょうをつくり、そ母が五十年い上つづけてきた魚屋を、家族で守っていききたいと思っています。

\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### 初めての立山登山

高岡市立高陵小学校 四年

阿波賀<sup>あわが</sup> 陽菜<sup>ひな</sup>

ボーイスカウトで、奈良の団との交流会で、立山登山に行きました。

出発するときから、空がくもっていたので、雨が降るかもしれないと言われて、私は初めての登山だったので、少し心配でしたが、最後まで降らなかったの

よかったです。

スタート地点の室堂までは、バスで行きました。登る前は、全部登りきれるか不安だったけれど、「大丈夫！みんながんばって登山しよう。」という隊長の言葉で、少し自信がわいてきました。

最初は、ゆるやかな道でしたが、一ノ越の先は、すごく山道で、岩がごつごつしていて、とても歩きにくかったです。それに、風もどんどん強くなり、上に登るほど寒くなったので、みんなジャンパーを着て登りました。

登るときにじゃまだと思っていた岩には、ルートが分かりやすいように、赤い矢印がかいてありました。登るコースの岩には赤い矢印、降りるときのコースの岩には黄色の矢印がかいてありました。隊長に聞いたところ、「より安全に登山するために登りのルートとくだりのルートの岩に矢印がかかっている。」と、言っ

ていました。私たちも、矢印のおかげで迷うことなく、登山することができました。

登り始めて一時間ちよつとで、ようやく頂上に着きました。私も団のみんなも、へとへとになっていました。ついてから、みなでお弁当を食べました。ふうのお弁当のはずだけれど、いつもよりもおいしく感じました。そのおいしさは、山の頂上についた達成感からか、頂上からの景色がキレイだからか分からないけれど、みんなも、「いつもよりおいしい。」と言っていて、なんだかほっこりしました。

お弁当を食べた後、みんなで雄山神社でお参りをしました。雄山神社は、七月から九月の間、げん定でお参りできる神社です。そして、雄山で一番高い神社です。雄山神社では、宮司さんに下山も無事にできますようにと、おいのりをしてもらえます。一番高いところでは、無事に登りきったぞという、祝福のばんざい

をみんなでしました。

兄のチームは下山するときに、雷鳥とおこじよを見たそうです。私は、動物園でしか見たことがないので、私も見たかったと思いました。

帰りには、日本の名水百選の立山玉殿たまどのの湧水ゆみずいを飲んでみました。すると、名水百選だけあって、とても冷たく、おいしかったです。

登っているときは大変だったけれど、頂上に着くと、とても景色がキレイで、達成感がありました。立山は、日本三霊山の一つと言われているので、残りの二つの白山と富士山にも、登ってみたいと思いました。

\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### レンタルわんちゃん

富山市立八幡小学校 三年

中西 なかにし  
澤菜 れいな

私は犬が大好きです。けれども、私の家では、犬をかえません。だから、犬をペットショップからかり、レンタルペットをして、少しの時間のふれ合いを楽しんでいます。

わたしの家族は、みんな動物が大すきで、ペットを

かいたい気持ちは同じです。けれども、お父さんもお母さんも、「まだかえない」としか言ってくれませんか。どうしてペットをかってくれないんだろうと考えました。

わたしの家には、お姉ちゃんとわたしと妹がいます。子ども三人にお金がかかるからかな。さん歩が大へんだからかな。家がよごれるのがいやだからかな。あんなにかわいい犬を、どうしてかってくれないのだろう。考えてもぜんぜん答えがわからないので、お母さんに聞いてみました。わたしたち子どもに、お金がかかるのは正かいだったけれど、それよりもお母さんが言っていたことは、「いのちに軽い、重いはない」「いのちをあずかるせきにん」です。

ペットはかわいいし、あそびあい手になるけれど、そこには、「いのち」があります。どんな小さな生き物も、お母さんがいのちをかけて生んで育てたいのち



です。人間もアリも、いのちの重さは同じです。

わたしには、学校にも近所にも友達がいて、遊ぶことも、わらうこともできます。けれども、わたしの家に来たペットは、わたしの家のことしか知らなくて、わたしたちがごはんをあげないと死んでしまうし、わたしたちがあちこちつれて行って、楽しませてあげないといけません。動物の友達もいないし、一人で出かけることもできません。そこで、ペットの「いのち」をあずかる意味を考えるようになりました。

小さいいのちだけれど、動物のお母さんが大切に育てた「いのち」を、次は、人間が大切にしないとけません。わたしは、そんな大切な「いのち」をまだ守ってあげられる力はないので、かなしいけれど、今はやっぱり、ペットをかうことはできないな、と思いました。「いのち」を大切に思うからこそ、かんたんにはペットはかえないし、もしこれから先にペットをかうこと

があつたら、せきにんを持って、しっかりとさい後までお世話をしたいなと思いました。



\* 中学年部門 \*

優秀賞

カエルの世話

射水市立新湊小学校 三年

宮城 みやぎ  
翔大 しょうた

ぼくは、ほ育園の年長のときから三年生の今まで、春にカエルをつかまえて、秋まで世話をしてにがしています。

カエルのえさは、生きたこん虫などです。年長のときは、お母さんが小学校の先生におねがいをして、学

校の池のアメンボをつかまえたり、近所の公園でバッタなどの虫をつかまえたりして、エサをあげていました。

小学生になっても、学校の池やグラウンドのはたけや草むら、公園でバッタなどのこん虫をつかまえてエサにしています。

でも、夏になると、虫をつかまえるのに毎年くろうするときがあります。それは、おぼんのころです。いつも行く公園の草が、あつさでかれたり、その公園が、りん時ちゅう車場になったりして、車のはいきガスなどで、虫が一気にいなくなるからです。学校の池のアメンボもなぜかきよくたんにへります。このときは、虫さがしがいやになります。

今年は、とくにこのあつさと、夏休み前に公園がちゅう車場になったことで、草がかれて、こん虫が見つからないときが、長くつづきました。池のアメンボも小

さい赤ちゃんサイズしかいません。時間をかけて、こ  
ん虫をさがしますが、なかなかカエルに合った、いい  
大きさの虫が見つかりませんでした。

また、たいへんなのが、ケースのそうじです。

カエルは、しゅるいによって、し育するケースのレ  
イアウトがちがいます。そのカエルに合ったレイアウ  
トにしながら、毎日、きれいにそうじをしてあげます。  
そうじをしてあげないと、びょう気になって死んでし  
まうからです。

一年生のとき、カエルが急に死んでしまい、悲しく  
てたくさん泣きました。このとき、きちんと世話をし  
ないといけないことの大切さを学びました。

今でも、「世話ができないなら、にがしなさい。」と、  
親におこられることがときどきあります。そのときに、  
かならず言われるのが、「あなたもごはんを食べたり、  
お風呂に入って体をきれいにしているように、カエル

もあなたが世話をしてくれるのをまっています。」です。  
二どとカエルをびょう気で死なせないためにも、世  
話をがんばりたいと思います。



\* 中学年部門 \*

佳作

魚をつかまえた！

高岡市立高陵小学校 四年

宮村 みやむら  
碧彩 あおい

「今日、川に遊びに行こう！」

お母さんが、とつぜん言い出しました。

「プールのほうがいい。」

私は反対をしました。おぼれて死んだ人の話を、よくニュースで見るからです。それと、川はプールと違っ

てきたないイメージが強いからです。

「常願寺川はきれいだよ。魚もいっぱいいるよ。」

お母さんに説得されたので、いやいや行ってみることにしました。

車の中で、ぐっすり眠ってしまいました。起きて窓の外を見たら、緑、緑、緑。自然の中に、川が流れていました。近くに行ってみると、思っていたのと違って、きれいでした。

「お母さん、遅い。早く川にはいろう。」

川の水はとても冷たくて、涼しくなりました。

「あっ、魚いる！つかまえよう。」

走って追いかけたら、魚は新幹線よりも速く、逃げてしまいました。

「今のは、きつとアユだよ。あんなの、速くてつかまえられるよ。ムリ、ムリ。」

「頑張ればとれる。絶対！」

次は、アユに気づかれないように、そーっと追いかけてました。やっぱりアユは、気配を感じて逃げてしまいました。

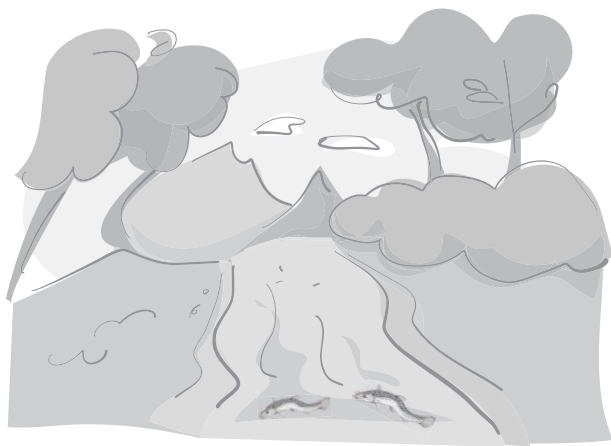
「やっぱり無理だあ。あきらめて、違う魚をつかまえよう。」

次に見つけたのは、十センチくらいの魚でした。一人ではつかまえられるないので、母と姉と私の三人で協力しました。あみで追いつめて、逃げないようにして、あみに入れる作戦です。何度も挑戦して、やっとつかまえました。

「やったあ！見せて、見せて。」

魚をよく見ると、口元にヒゲが生えていました。背中はへびみたいな模様で、横はきりんみtainな点々がありました。バケツの中でクネクネ泳いでいました。家に帰ってから、何の魚だったのか気になったので、調べてみました。なぞの魚は、シマドジョウでした。

ドジョウが川にいることを初めて知りました。川遊びは、危ないところもあるけれど、楽しいからまた行きたいです。



\* 中学年部門 \*

佳作

わたしの好きなけしき

高岡市立野村小学校 四年

山本 奈乃葉

わたしの家の近くには大きな川があります。庄川です。

出かけるときにはいつも、庄川のていぼうを通りま  
す。車のまどから見える庄川がとてもきれいで、車の  
まどを開けてながめるのが大好きです。

「この川の水はどこから来ているの？」  
「この川の水はどこに流れていくの？」

という、話を家族でするのも楽しいです。すごく遠い  
ところから流れてきた水が、川を通って広い海へ行く  
ことを思いうかべると、なんだかわくわくします。

あたたかい休みの日には、川の近くで楽しそうに  
バーベキューをしている、わかい人たちがいっぱい  
います。

川のそばにテントをはって、キャンプをしている家  
族がいます。

川の中にこしまで入って、長いつりざおで魚つりを  
しているおじいさんがいます。

広い川に向かって、サックスの練習をしているお兄  
さんがいます。

八月には花火大会があつて、たくさんの方が集まっ  
てきて、みんなうれしそうに花火を見えています。

庄川の近くには、いつも楽しそうな人たちが集まっています。

いつもは、きれいな水がさらさらと流れている川だけれど、台風で大雨がふった次の日には、茶色い水でいっぱいになり、木も半分くらいかかれています。ところがあります。こわいなと思う気持ちと、なんだかすごいなという気持ちになります。

お父さんやお母さんとは、子どもたちだけで川で遊ばない、台風や天気の悪い日にぜひ対に近づかないと約そくしています。

川というしぜんの中で楽しそうな人たちを見るのがわたしは大好きです。

川と人がおだやかにすごせる毎日がつづいたらいいなと思っています。



\* 中学年部門 \*

佳作

田植え体験

高岡市立高陵小学校 四年

山本 六果

わたしは去年、小院瀬見こいんぜみという、南と市の山のふかい場所で行われた、米作りの体験をしました。

そこには、わき水があつて、とてもきれいな水がながれていました。田んぼをかこむように、水路もありました。田植えのときの田んぼは、一度足をいれると、

ぬけなくなるほど深かったです。最初は、六角形のころころする道具で、植える場所の印をつけました。その印にそってなえを植えました。なえは、だいたい三本ずつ植えました。植える前は、水は止めていて、植えたあとに、流しはじめました。植えおわったら、わき水で足や手をあらいました。とてもつめたくて、きもちよかったです。田んぼに流れてきた水は、すきとおっていました。

水が入ると、いろいろな生き物が見えてきました。たとえば、ゲンゴロウやトノサマガエルやヒルやアメンボが、いっぱいいました。わたしは、このときにはじめてトノサマガエルにさわりました。おかあさんが、ゲンゴロウは、きれいな水にしかないといっていたのでおどろきました。

その年の九月に、いねかりをしました。いねかりの田んぼには、水が入っていませんでした。でもいねは、



とても大きく育っていました。深さは、最初のおなじで、とても歩きにくかったです。いねは、かまでかりました。かるときは、かた手でいねをもってかまをそえて、ぐっと引っぱって切りました。ぜんぶ最後までおわたたら、いねをたばにして、ほしました。そしてまた、きれいなわき水で、足や手をあらいました。ほかの人も、きもちよさそうに足や手をあらっていました。

わたしが、この田植え体験をして感じたことは、田植えには、水がとってもひつようなことです。それにきれいな水でないと、米もおいしくそだたないし、いろんな虫も生きていけないので、この山のわき水は、とってもきれいなことがわかります。

おこめは、何週間かあとに食べました。おいしかったです。自分で作ったと思うと、なんだかうれしくなりました。また作りたいです。



\* 高学年部門 \*

## 最優秀賞

### 来年もホタルが 飛んでくれますように

小矢部市立東部小学校 六年

山本 悠仁  
やまもと ゆうと

僕は、毎年、地元公民館で行われる、ホタル観察会に協力しています。

母が公民館で働いており、田川谷内川たがわにうちかわで行う、ホタル観察会の開催日を決めるための、下見に同行してい

ます。ホタルの数のピークを予想するために、何度も現地に行きます。近くに住む人から、ホタルが出始めたと聞くと、数日のうちに、数え切れないホタルが飛び交うようになります。行く度に、ホタルの数が増えていくのも、楽しみです。無数の光は、本当に美しく、僕のお気に入りの景色です。

ホタルの観察会では、ホタルの生態について学びます。ホタルの主食はカワニナで、美しい水がある環境にしか生息しないと知りました。また、成虫に育つまでの間に、ホタル一匹で約三十匹ものカワニナを食べることに驚きました。田川谷内川には、無数のホタルがいるのに、それだけのカワニナが必要なことに驚きました。

さらに、草の上でじっとしているのは、メスのホタルで、飛びまわっているのはオスのホタルだと、先生から教えてもらいました。現地に行くと、ホタルが僕の方に飛んできました。そっとホタルの体を裏返して、

発光器の数を確認すると二本あり、確かにオスだとわかりました。その後、何匹かまた僕の方に飛んできて、すべてオスのホタルだとわかりました。

よく見ていると、草むらでじっとしている光と、動き回る光を区別して見えるようになりました。ホタルの光は、ホタルのメスが飛んでくるオスと光で会話をしている、オスがメスに、結婚を申し込んでいる様子だと聞き、僕はさらに美しい景色に感じました。

今年の七月の大雨で、僕の住む地域も被害を受けました。豪雨で地域の川が荒れました。僕は、ホタルたちの住処すみかが、なくなったのではないかと思い心配になったので、近くに住む人に話を聞きました。

「豪雨だったけれど、幸いにも氾濫までならなかった。しばらく川の流れが乱れたけれど、ホタルの住処は大丈夫。時間をかけて、植物たちが元通りになり、一年後にはまた、ホタルたちが戻ってくれるよ。」と、話してくれました。

僕は安心しました。直後に現地を見たとき、そう思えなかったからです。今、川を見ると、いつもの様子に戻ってきています。環境を壊してしまう大雨は、大きな力だったけれど、それに負けることなく、元気に戻ろうとする自然の力も、大きいのだと感じました。

田川谷内川は、車で通ってしまえば、橋がかかっているのすら気付かないほど小さな川ですが、毎年六月には、無数のホタルの光が飛び交い、地域に住む僕たちを楽しませてくれる大事な川です。これからも、ホタルの生息地として、続いていくために、美しい水環境を保つ必要があります。そのためにも、川を守り続け、毎年、ホタルの観察会の準備を手伝いながら、何度も現地に行き、見守っていきたいと思います。

来年も、田川谷内川のホタルたちが、いつもと同じように無数の光を届けてくれることを願っています。

\* 高学年部門 \*

## 優秀賞

### 利賀村の自然豊かな環境

南砺市立利賀小学校 六年

今村 いまむら  
陽菜 はるな

私は、山村留学生として利賀村に来たことで、環境の大切さを知りました。利賀村に来てまだ一か月もたないころ、地域のクリーン作戦に参加しました。そこで、私は大きく分けて二つのことに驚きました。

まず一つ目は、地域の人みんなが協力し合っている

ことです。

集合するときには、「おはようございます。」終わるときには、「ありがとうございました。」と、挨拶で始まり、お礼で終わっていました。利賀村の人たちにとっては、当たり前かもしれませんが、私は、最初、何にお礼をしているのか、分かりませんでした。

四か月経った今、思い返してみると、参加してくれたことに対しての言葉だったのだなと感じます。それから、みんな協力してやるのは、本当にすごいことだと、改めて感じました。

二つ目は、ゴミの少なさです。

たくさんの人で参加しましたが、全然ゴミがありませんでした。二つのグループに分かれて、それぞれの地域を回りましたが、私のグループで拾ったゴミの数は、一つ二つだった気がしました。

驚いた理由としては、私の住んでいた神奈川県、

とある地域では、二メートル行けば、必ずゴミが落ちていました。タバコのゴミ、ビールの缶、お菓子のゴミ、さまざまなゴミがたくさん落ちています。でも、利賀村のように、クリーン作戦などはありません。そのうえ、誰が落としたか分からないゴミは、誰も拾おうとしません。小学生なども、普通にポイ捨てをします。しかし、私は、自分からゴミを捨てることはしません。ゴミが街に落ちていても、「汚いな。」とは思ったりしますが、ゴミが落ちていることなんて、当たり前前に思っていました。

でも利賀村に居ると、それが当たり前なのは、おかしいことだと気付くことができました。人口の数も違えば場所も違う。でも、村のきれいさは、利賀村の人たちが、自然を大切にする努力があつてこそなんだと思います。

だから、私は自分たちで、環境をよりよくしていき

たいと思います。また、利賀村の人たちのように、クリーン作戦をするなど、全国にも広めていくことが大切だと思うし、ポイ捨て等の環境を悪くする行動は、本当によくないことだと改めて思います。

そして、帰ったら、神奈川の家族や友達などに、利賀村の自然豊かできれいな環境や、人々の優しさについて、学んだことをたくさん広め、地元も利賀村のよくなきれいな街になってくれたらよいなと思います。そのために、学んだことを自分から実践していきたいと思います。



\* 高学年部門 \*

優秀賞

小さな一歩から大きな力へ

富山市立芝園小学校 六年

廣世ひろせ 真己まき

「始めは、どんな小さな一歩でも、温かい心の輪が広がれば、大きな力になる。それは、未来の地球環境を変えるきっかけになるのではないか。」と、私は今、感じています。このように考えるようになった、出来事がありました。

ボランティア委員会に入ったことをきっかけに、私は五年生のころから、毎朝、学校の玄関の掃除をする仕事を続けています。朝日を浴びながら、掃除をして、玄関がきれいになると、気持ちがよくて、この仕事が楽しくて好きになりました。仕事を続けていると、下学年の友達が、手伝ってくれるようになりました。その子が、いきいきと、玄関の砂を集めている姿を見ると、私はうれしくて笑顔になります。一緒に取り組む仲間が増えると、心強い気持ちになりました。

私は六年生になり、委員会の中で、地球環境やエコについて考えることになりました。

調べていくうちに、「みんなが知り、実際に行動を起こすことができたらいいな。」と思うことが、たくさんあることが分かりました。国語科や道徳科の学習の時間にも、地球環境やエコについて学び、今、私たちが行おうとしていることは、よりよい地球環境を作

ることにつながっている、という実感をもつことができ、続けていきたいと、思いを強くしました。

地球環境を守ることの大切さは、知っているけれど、どこか遠いことや、自分ひとりの力ではどうしようもないことのように、感じてしまうことがあります。けれども、どんな小さな取り組みでも、今、ここから、私たちから始めて、続けていくことが、大切なのではないかと考えています。

また、教室にも、みんなが気持ちよく過ごすために、できることがたくさんあります。

給食の準備や片付け、花の水やりなど、私は気が付いたときに、自分から取り組むようにしています。その姿を見ても、見ているだけの人や気付かない人、何も無いように振るまっている人もいます。それは、自分がしなくても大丈夫、という気持ちをもっていいからだと思います。そんな姿を見ると、心細い気持ちに

なることもありました。

けれども、続けていくうちに、一人、また一人と、手伝ってくれる人が増えてきました。今では、必ず一緒に仕事をしてくれる人がいます。一人で仕事をしているときよりも、ずっと心が温かく、より一層楽しく感じます。

私自身、みんなのためにがんばっている仲間の姿を見ると、「見習おう。」「一緒にやろう。」という思いが強くなります。そうして、「僕も」、「私も」と思える仲間が、増えていくといいなと思います。

このような小さな一歩は、やがて大きな力となり、地球環境を、よりよくしていくことにつながると信じて、今日も、自分にできることを、仲間と共に続けていきたいと思えます。

\* 高学年部門 \*

## 佳作

### 海の世界

富山市立新保小学校 五年

井下<sup>いした</sup> 結羽<sup>ゆづ</sup>

私は、夏休みに海のごみを拾いに、岩瀬浜海水浴場へ行ってきました。

最初、「海には、そんなにごみは落ちていないかもしれない。」と思っていました。けれども、海に着いたらたくさんのごみが落ちていて、とてもびっくりに

ました。

砂浜をばっと見たら、プラスチックのごみが、たくさん落ちていることが分かりました。砂浜をたった三十メートルくらい歩いただけで、ごみ袋一袋分のごみが落ちていました。見たことのある、日本のゴミもたくさん落ちていたけれど、見たことのない、中国語で書かれたペットボトルなどのごみも、落ちていました。私は、その場に捨てていかれたごみもあるけれど、流れてきたごみもあるのかもしれない、と考えました。海には、プラスチックごみだけではなく、ロープや缶などのごみも、たくさん落ちていました。

これ以上、海のごみを増やさないようにするには、まず、私たちがやれることを、精一杯やらなければいけないと思いました。例えば、なるべく海に、ごみになる物を持っていかないようにしたり、スーパーなどで、レジ袋を使うのではなく、エコバッグを使ったり



するなど、私たちにできることは、たくさんあると思います。

私たちができることを精一杯して、世界中の人に、伝えていきたいと思っています。海のごみを減らしたことで、何がいいのか考えてみました。

ごみを減らすと、人間だけが気持ちよくなるだけではなく、海で過ごしている生き物も、気持ちよくなります。海のごみを減らしたことで、世界中の誰もが、気持ちよくなります。また、海のごみを減らすことで、SDGsの十四番、「海の豊かさを守ろう」にもつながります。海のごみを減らしただけで、いいことがたくさんあります。

海にごみを落とさなくても、川や用水路に落としても同じです。海や川などにごみを落とす人は、ごみを落としてどんないいことがあるのか、考えてみてください。

海にはたくさん生き物が暮らしています。ごみを海に捨てていく人は、自分のことしか考えていない人だと思っています。相手のことも考えていたら、海や川にゴミを置いていかないと思いました。誰もが、もっと相手のことを考えて行動したら、海のごみは少なくなると思います。海のごみを減らしただけで、SDGsの目標が一つ達成できるだけではなく、たくさんのことにつながると考えました。

一人一人が、相手のことを考えて行動したら、これ以上、海のごみは多くなると考えました。誰もが相手のことを考えて過ごしたら、誰もが気持ちよく過ごせて、とても平和な未来になるかもしれません。

世界中の人で平和な未来を作っていきたいです。私も海のごみを減らすために、協力していきたいと思っています。

\* 高学年部門 \*

## 佳作

### ゴミを減らそう

南砺市立利賀小学校 六年

南田 みなみだ  
衣吹 いぶき

「おいしかった。」

と、ゴミ箱に空のペットボトルを入れる。このころの僕は、まだ世界のごみの量について知りませんでした。

ある日、日本のごみの排出量について調べました。

まだ僕は、「日本は、世界でもきれいな国だし、大丈

夫だろう。」と気楽な気持ちでした。

しかし、調べてみると、現実はそんなに甘くはありませんでした。なんと、日本では年間四、一六〇万吨ものゴミが排出されていることが分かりました。僕は、とてもびっくりしました。他にも、そのごみを処理するためにかかるお金が、二兆一、二九〇億円にものぼるといふ、想像もつかない金額でびっくりしました。

さらに詳しく調べてみると、二〇二〇年の、一人一日当たりのごみ排出量、ランキング一位は、なんと私たちが住んでいる富山県でした。ゴミの量は、一人一日当たり一、〇三九グラムだそうです。この結果を見て、とても悲しい気持ちになりました。

そのため僕は、ゴミを少しでも減らす活動を始めました。

初めに、僕はペットボトルをどうにかしたいと思い

ました。ペットボトルは図画工作科の材料にしたり、水を入れて再利用したりするなどの工夫をしました。他にも、兄が着ることができなくなった服をもらって着たり、もう遊ばないおもちゃを、小さい子にあげたりするなどの工夫をしました。でも、ゴミを減らすとはあまりできませんでした。このままではだめだと思った僕は、家の中でごみを減らそうキャンペーンを開こうと思いました。

これは、今年の夏休みに少しでもごみを減らそうというもので、ペットボトルやトイレットペーパーの芯の再利用、ゴミだと思ってもすぐに捨てないこと、いらぬ紙を何かに使うことなどの工夫をしました。すると、家庭ゴミを捨てる袋が、いつもより少しだけ軽くなったような気がしました。

目標はもちろん、富山県のゴミの排出量を少しでも減らすことです。僕の作文を見た皆さんも、ごみを減

らす活動をしてみようかな、と思ってもらえるとうれしいです。そうすることで、富山県が自然豊かな町になることを僕は願っています。

ゴミが減るととても気持ちがいいです。これからも、ゴミの排出を抑えるように意識して、生活していきたいです。







# 清流環境科学賞

\*低学年部門\*

最優秀賞

カナヘビをまもりたい

高岡市立下関小学校 二年

道古 陽俊

ぼくのいえには、カナヘビがいます。一年生のときもかっていたけれど、うまくおせわができませんでした。今年のなつ休みは、一ばん多いときで、九ひきのおせわをしました。たまごもうみました。

小さいコオロギや、虫をかんそうさせたえさをやっ

たり、きりふききで水をやったり、かくれがおいたりしておせわをしました。

でも、いつのまにか二ひきになってしまいました。きのう一ぴき見つけて、今は三ぴきいます。なんとか元気にいてほしいと思っています。もう、カナヘビのおはかは、ふやしたくありません。かなしかったです。

カナヘビがうんでくれたたまごは、はじめに四つあったのが、水のやりかたがわるくて、かびがはえてしまったためになりました。

しばらくしたら、また三つ、四つとうんでくれて、こんどはしんちようにおせわをしています。一月ほどしたら、ふかするそうです。

友だちは、二ひきふかさせたそうです。ぼくも赤ちゃんカナヘビにあえることを、たのしみにしています。

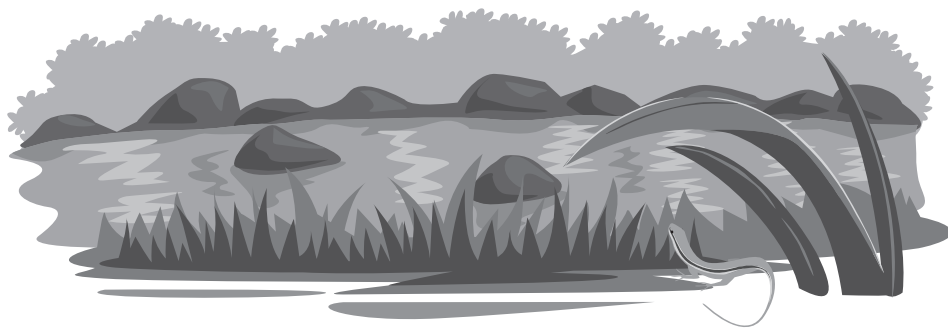
今かっているのは、ニホンカナヘビですが、ミヤコカナヘビやサキシマカナヘビもそだててみたいと思う

けれど、おきなわにしかないし、ぜつめつきぐしゆなのでむりです。

ニホンカナヘビは、にわや草むらなどで、かんたんに見つけられますが、あまりつかまえずぎると、数がへって、いつのまにか、ぜつめつきぐしゆになってしまふと大へんです。

今かっているカナヘビたちを、いつかしぜんの中へにがしてやるつもりです。そして、しぜんの草むらの中で、たくさんのたまごをうんで、なかまをふやしてほしいです。

日本は、山や森林が多く、しぜんがゆたかで、日本にしかないカナヘビが多いと聞いたので、しぜんをこわしたくありません。



\*低学年部門\*

優秀賞

きれいでたのしいかわをまもりたい

富山大学教育学部附属小学校 一年

青砥<sup>あおと</sup> 千華<sup>ちか</sup>

わたしは、まいとしなつになると、かぞくでかわにあそびにいきます。

さいしょは、どきどきしたけれど、うきわにつかまっておよいだり、おおきなわからとびこんだりすると、たのしくなりました。それに、かわにもぐると、そこ

がみえるくらいきれいで、さかながおよいでいるのも、すぐちかくでみられます。とちゅうできれいないしをみつけて、おみやげに一つもってかえって、にわにかざりました。それで、わたしは、かわにいけるなつが、とてもたのしみになりました。

でも、このまえのおおあめで、いつもあそぶかわのうえのほうで、どしゃくずれがおきたとテレビでいっていました。たくさんのきのえだやどろが、はいつてきたそうです。

そのおおあめは、「せんじょうこうすいたい」というなまえで、おかあさんとしらべてみると、ちきゅうおんだんかと、つながっているのだとわかりました。ちきゅうおんだんかは、ほっきょくのしろくまや、あざらしのすみかがだんだんせまくなったり、さばくがひろがったりするのはしっていたけれど、おおあめにもつながっていることは、しりませんでした。



おおあめがふると、どしゃくずれやこうずいが、たくさんおきるし、とうめいだったかわが、どろだらけのいろにかわって、ながれもはやくなってしまう。そうになると、はたけやたんぼのみずもつかえなくなつて、たべものもへるので、みんながこまってしまいます。だから、わたしはちきゅうおんだんかを、すこしでもとめたいとおもいました。

でんきをこまめにけしたり、クーラーをひやしすぎないようにしたりして、すこしでもとめたいです。そして、またきれいなかわで、たのしくあそんだり、おいしいみずをたくさんのだりしたいです。



\*低学年部門\*

優秀賞

ぼくのゆめ

富山市立宮野小学校 二年

川住 悠貴

今年の五月ごろ、お父さんといっしょに、山へ、シュレーゲルアオガエルのたまごを見に行きました。

シュレーゲルアオガエルは、山の水べにいる、アマガエルよりすこし大きい、黄みどり色のカエルです。山につくと、草だらけの田んぼに、たまごがあります

た。たまごは、あわにつつまれていて、せっけんのあわみたいなさわりごちでした。

水がすくなくところに、たまごのあわが一こありました。水がなくなりそうだったので、もちかえてそだてることにしました。なん日かたつと、ポチョンと音が聞こえました。たまごからかえったオタマジャクシが、あわの上をおよいだり、あわの下から出て、水の中に入ったり。ぜんぶかえると、虫かごの中がオタマジャクシでいっぱいになりました。すると、お父さんが、「山にかえしに行こう。」と、言いました。

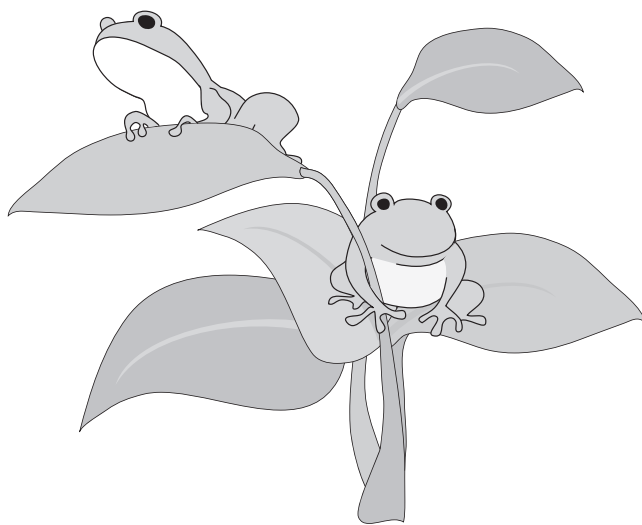
たまごがあった田んぼにかえしに行ったら、水がなかったので、水があるばしょをさがしました。水べをさがしながら山をかんさつすると、たくさんの生きものをを見つけました。

山の水がながれて、こけが生えている水ろには、イモリやオオコオイムシの家ぞくやミミズ、ヤマアカガ

エルがいました。小さいためいけには、ミズカマキリ  
やタイコウチ、ヤゴ、しょく虫しょくぶつのイヌタヌ  
キモがいました。

図かんでしか見たことがない生きものが、いろんな  
ところにいました。とてもワクワクして、こんなばしょ  
があるんだなと思って、うれしかったです。お父さん  
たちが子どものころ、み近だったしぜんが山の中のの  
こっていました。

ぼくは、山だけではなくて、いろんなところにしぜ  
んをふやして、たくさん生きものたちのくらすば  
しよをまもっていききたいです。それがぼくのゆめです。



\*低学年部門\*

優秀賞

やせいのかいこ てんさんをそだてる

富山市立宮野小学校 一年

友崎<sup>ともさき</sup>  
昊絲<sup>こうし</sup>

ぼくのばあばは、やつおまちで、てんさんという、  
やせいのかいこをそだてています。

くぬぎのはっぱを、たべてそだつ、てんさんを、二  
さいのときから、ばあばといっしょにそだてています。  
ごみたいなたまごを、やまつけようし、というか

みに、ぴんせつとではって、そのかみを、くぬぎのえ  
だにまいて、ほっちきすでとめます。いっしゅうかん  
くらいで、ようちゅうにふかして、はっぱをもりもり  
たべます。ようちゅうは、とてもくいしんぼうで、き  
をまるぼうずにするくらい、はっぱをたべます。ぼく  
は、ようちゅうがくつついているえだを、はさみできつ  
て、はっぱがいっぱいあるきに、いどうさせて、せん  
たくばさみでとめてあげます。

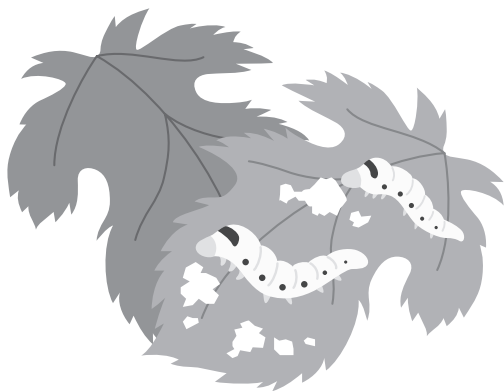
いっかげつはんくらいで、ようちゅうは、まゆをつ  
くりまします。みどりいろのまゆは、はっぱにうまくかく  
れていて、さがすのがたいへんです。ぼくは、しゃが  
んだり、はっぱをひっくりかえしたりして、まゆをさ  
がします。

しゅうかくしたまゆは、いとにするものと、ぺあり  
んぐようにわけます。いとにするまゆは、かんそうき  
にかけます。ぼくは、すいっちをおすかかりです。ぺ

ありんぐようは、おすとめすにわけてうかさせます。  
うかしたせいちゅうのおすとめすを、一とうずつ、さ  
んらんかごにいれて、たまごをうませます。

さんらんかごに、うみつけられたたまごを、ゆびで  
はずします。たまごは、らいねんのはるまで、れいぞ  
うこにいれます。

てんさんをそだてるしごとは、とてもたいへんです  
が、これからも、ばあばとがんばります。



\*低学年部門\*

佳作

あさがおのせいちよう

富山市立宮野小学校 一年

椎名 琉愛

わたしは、一ねんせいになって、あさがおをそだてました。

さいしょは、ゆびでつちにあなをあけて、たねをうえました。たねは、くろくてちいさかったです。つちをやさしくもどしてあげて、みずをたっぷりあげまし

た。あんなにちいさいたねから、ほんとうに、あさがおがさくのかなあ、とおもいました。

ちいさなめや、はっぱがでてきたときは、とてもうれしかったです。

まいにち、みずをあげると、どんどんそだっていきました。つるもながくのびて、はっぱもたくさんつきました。

そのあと、はじめてのはながさきました。むらさきのきれいなはなが二こさいて、とてもうれしかったです。

なつやすみになって、あさがおをいえにもってかえって、そだてました。まいにち、あさとゆうがたに、みずをあげて、かんさつしました。

つるは、さらにぐんぐんのびました。とうとう、わたしのしんちようより、おおきくのびました。あみやぼうにからまりながら、くねくねとのびていきました。

あさがおに、めがあるみたいで、とてもふしぎでした。  
はなも、おおいときで、九こもさきました。とてもきれいでした。

はながさきおわたたら、たねができていて、たくさんとれました。そのたねをまたうえて、あさがおをそだてたいとおもいました。

あさがおに、まいにちみずをあげていたから、こんなに大きくなったのだとおもいました。にんげんといっしょで、あさがおにも、みずはとてほしいせつなんだとおもいました。



\*低学年部門\*

佳作

めだかをかうのはむずかしい

富山市立宮野小学校 一年

谷井たにい 悠誠ゆうせい

めだかをかうことになりました。

おにいちゃんが、ともだちのおじいちゃんから、四ひきもらってきました。三ひきは、ふつうのめだかでした。一ひきは、くろかったです。

おとうさんとおにいちゃんが、いっしょにおみせに

行って、みずくさやすなやえさ、すいそう、ぼんぶをかってきました。

めだかだけだとさみしいので、えびも三ひき、いっしょになかまとしてかってきました。

ぼくは、おにいちゃんといっしょに、ほんで、めだかのことをしらべました。いんたーねつとでもしらべて、どうがも、みました。

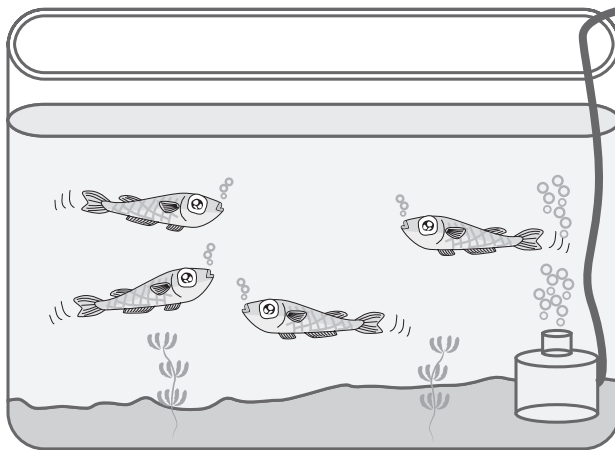
まいにち、かんさつをしました。えさもあげて、おせわをしました。でも、えびやめだかがしんでしまつて、かなしかったです。

めだかは、おす二ひき、めす二ひきで、しぬまえには、めすのおなかに、ちいさいたまごがたくさんくつついていました。いっつうまれるのか、とてもたのしみにしていたので、ざんねんでした。

いきものをかうことのたいへんさを、ぼくははじめてしりました。



いまは、めだかは一ぴきしかいません。なかまはいないけれど、だいじにそだてようとおもいます。



\* 中学年部門 \*

最優秀賞

もう一度会いたい

舟橋村立舟橋小学校 三年

中村 堯史  
なかむら たかふみ

ぼくには、「ひみつの場所」がある。

それは、ぼくの家からおじいちゃんの家へ、自転車で行くときに通る、田んぼ道にある川だ。たくさんのお蝶を見ることのできるのだ。去年の六月、おじいちゃんが見つけてきてくれた。

「たかちゃん、お蝶見に行こう。」

ぼくは、その場所に行って、数えきれないくらいのお蝶を見るとき、びっくりしてむねがドキドキした。ピカッピカッと、いろんなところで自由に光っている。とんでいるお蝶を手でつかまえたり、虫とりあみでつかまえたりして、虫かごに入れて、何匹か家に持ち帰った。

図かんで調べると、「水よりもさとう水をあげたほうが長生きする。」と書いてあったので、毎日さとう水をあげて、大切にかつていた。

五日くらいたったころ、一匹死んだ。お父さんが、「ほかのお蝶、元の川に、もどしてあげて。」と言ったので、ぼくは、しぶしぶはなしてきた。

今年も、お蝶の時期が近づいてきた。六月の終わりのある日、いよいよあの場所にお蝶を見に行くことになった。ぼくはワクワクしていた。

ところが、ほとんどホタルはいなかった。えっ、どうしたんだろう……。よく見ると、何匹かはいるけれど、去年とはくらべものにならないくらい、さみしいふうけいだった。がっかり、がっかり、がっかり。一年間でこんなにかわってしまふなんて……。

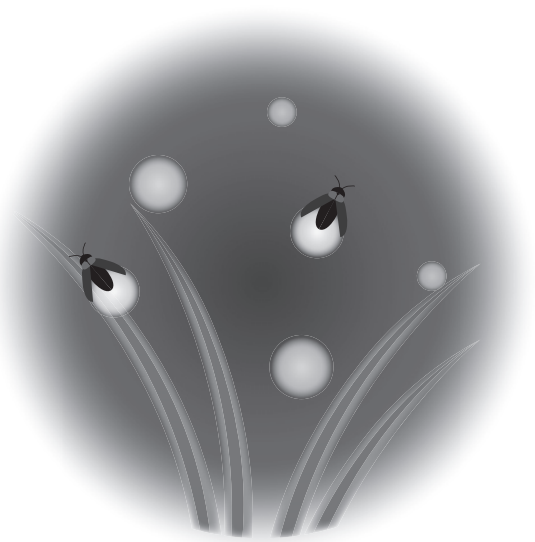
「ホタル、ほとんどいないね。」と、おかあさんがつぶやいている。

ぼくは悲しい気持ちと同時に、どうしてこんなことになってしまったのか考えた。

この一年、何があったんだろう。川の水が足りなかったのかな？ エサのカワニナが少なかったのかな？ 田んぼの農薬のせいかな？ 去年、ぼくがつかまえたからかな？ いろいろ原いんを考えるうちに、ぼくは、ホタルをまもるために、何かをやりたいと思った。

ぼくの小学校では、四年生がホタルのよう虫を育てて、川にもどすとり組みをしている。ぼくは、四年

生にし育の仕方を教えてもらおうと思った。そして、あのひみつの場所で、たくさんホタルにもう一度会いたい。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### 庄川のきれいな水

高岡市立高陵小学校 四年

白銀<sup>しろがね</sup> 寿明<sup>としあき</sup>

家の近くを流れている、庄川のかんきょうや自ぜんを調べるために、お父さんといっしょに、川沿いを町から山へ向かってたどりました。

少し進むと、庄川の水に入って、魚つりをしている人たちを見かけました。庄川の水がきれいだから、魚

がたくさんいるのだと思いました。川の中には、水門がいくつもありました。お父さんに聞いたら、「水門は、川の水を町の田んぼに流すためにあるよ。」と、教えてくれました。

家の近くの用水路に、小魚が泳いでいるのは、水門を通って庄川の水が流れているおかげだと思いました。

もう少し進むと、コンクリートのテトラポッドを置く工事をしていました。川のかんきょうによくないのでは、と心配になりました。しかし、後から調べると、川の形を守るために、必要な工事だということがわかりました。

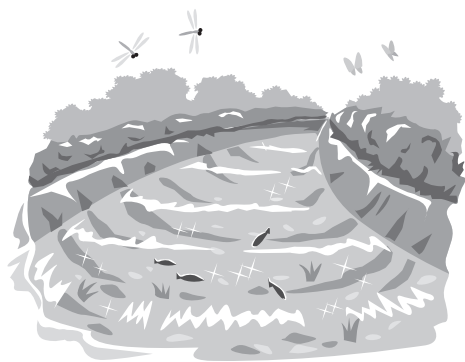
さらに進むと、合口<sup>ごうぐち</sup>ダムにたどり着きました。ダムの上を歩いて川をわたりました。ダムは、とても高く、中にはたくさんの水がありました。ここでは、魚のほかにも、カルガモなどの水鳥たちも見つけることが

できました。ダムの中には、クイズのかん板がいくつもありません。ダムの中には、魚道といって、魚がダムを上がるために作られた、階段のような水路があることや、季節によって、いろいろな種類の魚や水鳥たちが、ダムの近くにすんでいることを知りました。たくさんきれいな水や魚道のおかげで、魚や水鳥たちが、ダムの上でも元気にくらしていることがわかりました。

ダムから少しはなれたところには、水のし料館がありました。庄川と小矢部川が、昔は海の近くでつながっていたことや、山で切った木を、川の水を使って、町の方に送っていたことを知りました。一番おどろいたのは、古城公園のほりの水は、庄川から流れてきていることです。古城公園の生き物が元気なのは、庄川の水がきれいだからだと思います。

庄川の川沿いをたどったことで、人々が、昔から川

の水を大切に使用して、生活してきたことがわかりました。川の中に、ごみが落ちていたりところがあって、さんねんな気持ちになりました。みんなが、ごみをすてないように気をつけることが、大事だと思いました。庄川のきれいな水と、魚や水鳥たちのかんきょうを守っていくために、ぼくも心がけていきたいと思えます。



\* 中学年部門 \*

## 優秀賞

### 砂浜を歩くぼく

富山市立月岡小学校 四年

高森 たかもり  
創士郎 そうしろう

ぼくは、砂浜を歩くことが好きです。なぜなら、自分がゲームの主人公になった気持ちになれるからです。ゲームでは、旅をすることで、いろいろなアイテムを手に入れることができます。

この前、家族で海に行ったとき、かっこいい流木を

見つけました。かっこいい流木はゲームの世界の、けんのよう感じられ、流木さがしはゲームの世界に入りこんだようで、とても楽しいです。

でも、ぼくには一つ気になることがあります。砂浜では、たくさん流木が落ちていて一方で、発ぼうスチロールやビニールぶくろ、ペットボトルなども多く転がっています。そのほとんどは、ぼくがふだん買うジュースが入っているペットボトルとはちがい、すぐきたないように感じます。なぜそんなによれているのか、父に聞いたことがあります。それは、どこかで捨てられたペットボトルが、海をさまよって、この砂浜に流れついたからだそうです。

ぼくは、学校のじゅ業で、かんきょうチャレンジ10を行っています。その中で、発ぼうスチロールやビニールぶくろ、ペットボトルは、リサイクルできると習いました。これらは、地いきで決められた日にゴミステー

ションに持つていくことでリサイクルされ、服などに生まれかわるそうです。

かぎりあるしげんとしてリサイクルしていくことが大切です。なぜかというと、発ぼうスチロールやビニールぶくろ、ペットボトルは、石油という化石ねんりょうで作られているからだそうです。

日本では、その多くを外国からお金を出して買っています。また、世界の化石ねんりょうにはかぎりがあります。さらに、ペットボトルを作るときには、地球温だん化のげんいんになる二さん化たんそもはいしゅつされてしまいます。

かんきょうを大切に、じぞくかのような社会を作つていくためにも、リサイクルはとてもじゅう要なのだと感じました。そうすれば、砂浜に流れつくゴミがへり、つまづくことなく、流木をさがすことができると気がします。

きれいな砂浜で、かっこいい流木をさがしている自分を想ぞうすると、とてもワクワクしてきます。だからこそ、ぼくはきれいな砂浜がいつまでもつづくように、リサイクルを心がけていきたいです。



\* 中学年部門 \*

## 佳作

### マイクロプラスチックのおそろしさ

富山市立新庄小学校 四年

清水<sup>しみず</sup> 逞雅<sup>たくが</sup>

「えっ、何これ？」

ぼくは今、社会科のじゅ業でごみの学習をしています。海の中にビニールぶくろやごみがたくさん入っている写真を、そのときに見たのです。

その日からぼくは、海洋ごみについて、もっともっ

と知りたくて、六月中じゅんに家族で岩せ浜に行き、ごみの調査をしました。

一番多かったゴミは、グミやポッキーなどのおかしのふくろ、食品トレイです。ライターやビーチサンダル、くつ、空きビン、空きかん、かさの持ち手など、他にもたくさんのごみがおちていました。その一週間後、今度は、学校のさんかできる子どもとその親で、岩せ浜へ行き、みんなでごみ拾いをしました。

海岸を家族で歩くと、大きな発ぼうスチロールやプラスチックのはへんがありました。一番おどろいたのは、大きな流木と木のえだなどのひょうりゅう物が大りょうに浜にうち上げられていたことでした。

さらに、ぼくがとてもショックだったのは、たくさんひょうりゅう物の中に、小さなクサフグがはさまり、カラカラにひからびて死んでいたことと、近くの波打ちぎわに、ペットボトルやつり糸、たくさん流



木といっしょにうち上げられて死んでいたマアジを見たことでした。

七月下旬に、ぼくが家族と魚津水族館へ行ったときも、アカナマダのいの中から、ビニール、葉の包み、ヒモなどのごみがたくさん出てきて、そのごみがてんじされていました。

富山わんでは、これまでに、十二こ体のアカナマダが記ろくされているのですが、海のそこには、ビニールへんやビニールごみが多く、いの中から出てきた魚もいたようです。水族館の人も、「大変ショックな出来事」と書いてありました。

ぼくはクロームブックで、マイクロプラスチックを知りました。マイクロプラスチックとは、五ミリメートル以下のプラスチックごみのことを言います。

プラスチックは、海にただようと、海に流れてきた農薬や工業はい水などにふくまれた、ダイオキシシな

どとくつつきます。その有がい物しつをつけたプラスチックを魚が食べて、その魚を人間が食べると、がんの発生や、めんえき力てい下などをひきおこすと考えられているそうです。

世界中の人々が、プラスチックごみについて考えたり、スリーアールに取り組んだりして、安心・安全にらせるようになると思います。



\* 中学年部門 \*

佳作

大雨の日にわたしが考えたこと

富山市立鵜坂小学校 三年

丸山 まるやま 藍 あい

この前、テレビのニュースで、大雨が何日間もふりつづいたせいで、山の土しやがくずれて川にながれこみ、こい茶色の水が大あばれしているのを見ました。そのとき、小矢部市の一のたき二のたきが、どのよ  
うな様子か、えいぞうがながれたのを見てびっくりし

ました。なぜなら、去年の夏に、家族で行ったことのある場所で、そのときの様子と全ぜんちがっていたからです。

家族で遊びに行ったときは、川の底まで見えるきれいな水が、ゆっくりとながれていて手で水をすくったり、はだしになって水の中に入ったりして、たきのそばまで行って水遊びしたことを思い出しました。

わたしは今年もたきに行つて水遊びをしたかったのですが、テレビで見た一のたきの様子があまりにもこわかったので、遊びに行けないなと思いました。

去年遊びに行つて見つけたハグロトンボは、あの茶色くにこった水に、ながされていなくなつてしまったのではないかと心ばいになりました。一のたきが、あばれたきになるほどの大雨がふつた原いんは、何だろうと思いました。そこでわたしは、クロムブックで調べてみたところ、大雨がふえている原いんは、地球

温だん化がえいきょうしていて、世界てきなきぼで、  
気こう変動がおこっていると、国土交通しょうのホー  
ムページに書かれていました。

地球温だん化を止めるために、わたしたちには何が  
できるのかを調べてみると、室内温どをてき温にする  
ことや、テレビを見ないときは消すこと、れいぞうこ  
をむだに開閉しないことなど、今すぐにでもできるこ  
とがたくさんありました。

一見すると、大雨のさいがいと、れいぞうこの開閉  
は、まったく関係がないように思えますが、大雨のさ  
いがいをこれい上ふやさないためにも、わたしたちが  
できることを、すこしずつでもやっていこうと家族で  
話し合いました。そしてまた、きれいでとうめいな水  
の一のたきへ行きたいです。そして、ハグロトンボや  
ほかの動植物を、まもっていききたいです。

わたしたちの身近にある山や川、海、自ぜんをこわ

すのもまもるのも、わたしたち人間です。地球のおい  
者さんは、わたしたち人間しかいないのだと感じまし  
た。



\* 中学年部門 \*

## 佳作

### 生ごみを資源に変えるコンポスト

小矢部市立東部小学校 四年

山本 やまもと  
麻央 まお

私は、一学期の授業でゴミについての学習をしました。  
た。

その中で私たちは、環境を守るために何ができるかを考えました。身近な食品ロスを調べるために、給食ののこり物を量ったところ、たくさんの食べ物がゴミ

になっていました。

私は、他にも何かできないかと考え、家族に相談しました。お母さんが、「コンポストがあるよ。」と教えてくれました。

コンポストは食べ物ののこりを、土にかえるまほうの箱のようなものと聞きました。私は、ためしてみたいと思い、家族でコンポストに取り組むことにしました。

そこで、私は夏休みの自由研究で、「段ボールコンポスト」に挑戦することにしました。コンポストの中で、手軽で、あまりお金もかからないからです。段ボールコンポストを始めると、生ゴミをコンポストに入れることが楽しみになりました。野菜の皮や食べ残しなどをコンポストに入れると、毎日のように変化がでて、数日で土が変わっていくのがわかりました。

さらに、毎日出る生ごみを量ったら、二十五日間で

およそ五キログラムの生ごみを出していました。これらの生ごみを全てコンポストに入れることで、ゴミ袋に入れた「ゴミ」として出さずにすみました。生ゴミは水分が多いから燃えにくく、エネルギーをたくさん使って、無理やり燃やしているそうです。コンポストは、石油などのエネルギーを使うことなく、ゴミを減らしてくれる環境にやさしい方法だと思いました。

コンポストは、自然界で落ち葉などから土が作られるように、生ごみを微生物の働きを使って発酵、分解させて、畑の肥料として役立つ「堆肥」に変えることができます。

つまり、コンポストを使うことで、生ゴミがゴミではなく、大切な「資源」に変わるのです。私は、これからもコンポストをつづけ、堆肥を作って家庭菜園で、野菜を育ててみたいです。

また、フランスでは、二〇二四年からコンポストに

生ゴミを分別しなければいけないそうです。

世界もコンポストに注目しています。調べてみると、日本でも自治体でコンポストを広めているところがあります。私が住む小矢部市でも、コンポストを使う考えが広がるといいなと思います。

二学期に入って私の教室で、牛乳パックのコンポストに取り組む活動が始まりました。私のコンポストの取り組みから、教室のみんなにコンポストのすごい力を伝えることができたと思いました。

私は、ゴミ問題に少しでも協力して、「生ごみを資源に変える」手伝いをこれからもしていきたいです。

\* 高学年部門 \*

## 最優秀賞

### ささいな挑戦が環境を救う

富山市立堀川小学校 六年

神宮字 じんぐうじ  
柑菜 かんな

私が今回、「清流作文コンクール」に応募をしようと思ったきっかけは、昨年の授賞式のために、クラスメイトや他の小学校の人たちが環境を守るために、自分のできることを積極的に取り組んでいる話を聞いたからです。自宅でコンポストをしたり、資格を取って

立山の保護に努めたりするという話でした。

私はその話を聞いて、ただ考えるだけではなく、何か自分で出来ることを考えて、取り組まなければならないと思いました。

私は今、学校で、「気候変動」という学習をしています。その学習では、「地球温暖化」について調べています。地球温暖化の原因の一つには、物を燃やすことで出る二酸化炭素があるということが分かりました。私は、そこで、燃やすゴミを減らすためにいらなくなった衣類に注目しました。

現在、いらなくなった衣類は、市やお店で回収、リサイクルされるようになってきました。それは、主に着ていた服で、下着やくつ下などは含まれていません。下着やくつ下のような衣類は捨てられます。それを利用できないかと考えました。

ある日、テレビを見ていたとき、衣料から肥料を生

成し、野菜を育てる、「サーキュラーファーム」というものが、あることを知りました。自宅では、自分で衣料から肥料を作ることではできないので、私は、その衣料をそのまま使って、植物を育ててみようと思いましたが。小学校五年生のときに、「水、空気、適温、日光、肥料」があれば、植物を育てることを学んだので、土がなくてもできると、思ったからです。

家でいらなくなったり下やパジャマのズボンを、根が張りやすいように細かく切って、プランターに入れました。植物は、根が短いミックススリーフを選びました。肥料は水やりの時ときに、液体肥料を混ぜてあげました。それ以外は、育てるときと同じようにするだけで、ちゃんとミックススリーフが育ちました。

私はこの結果から、少し工夫をすれば、自分次第でゴミを減らすことができるのだなと思いました。

ゴミを減らすことができれば、二酸化炭素の濃度も

低くなり、「地球温暖化対策」につなげることができ  
ます。

「地球温暖化対策」とは、大きなことや難しいことばかり考えがちですが、一人一人が小さいことから始めて、楽しめばよいのです。それが、やがて大きなものになり、環境を変えていくことができると思います。

興味からちょっとやってみようと思う気持ちを大切に  
にして、積極的にいろんなことを試したり、取り組ん  
だりすることを、みんながしてほしいと思います。

\* 高学年部門 \*

## 優秀賞

### 海洋酸性化による生物の危機

富山市立堀川小学校 六年

坂田さかた 翔梧しょうご

ぼくは七月に、富山市科学博物館のサイエンスライブを聞きに行きました。

その日は、「富山の貝殻」というテーマで、展示してある貝殻を見ながら、貝の種類によって生息場所が異なることや、富山に流れ着いた貝のことを教わりま

した。

サイエンスライブの後に、学芸員さんに大好きなあさりのことを質問しに行きました。そのときに、富山のアサリの生息の他に、最近は海洋酸性化が問題になっていてることを教わりました。

海洋酸性化って何だろうと思い、家に帰って調べてみました。海洋酸性化というのは、海水が酸性になるわけではありません。元々、海はPH約八で、弱アルカリ性です。そのPHとは、海水中の水素イオン濃度指数のことで、中性がPH七で、酸性に近づくほど数値が小さくなります。

気象庁による報告では、一九九〇年から二〇二一年までの期間で、十年あたり〇・〇一九の割合で低下していて、酸性側に近づいているそうです。この三十一年間では、約〇・〇六の割合で、酸性化が進んでいます。数値で見ると、とても小さな変化に感じますが、その



変化のせいで、今の海洋生物がとても苦しんでいることを初めて知って、おどろいたし、ショックを受けました。

そもそも、なぜ海洋酸性化が起きているのでしょうか。その一番の原因は、人間の活動による二酸化炭素排出量の増加です。海は、人間が出す二酸化炭素の約三〇%を吸収してくれます。その二酸化炭素が、海水に吸収されると、化学反応により水素イオンができませんが、最近はその水素イオンの量が増えていることで、酸性化が進んでいるのです。また、二酸化炭素の海水に溶ける量が増えることによって、サンゴや、貝の殻の形成に必要な炭酸カルシウムが減ってしまい、成長がおそくなってしまおうです。もしこのまま、海洋が酸性化してしまうと、絶滅つしてしまう生き物も出るのでしよう。海の生態系が崩れてしまうのです。海洋酸性化をこれ以上進めないためには、どうすれ

ばよいのでしょうか。世界各国では、二酸化炭素排出量削減のために、目標を立てて取り組んでいます。二酸化炭素をあまり出さないエネルギー供給を増やしたり、省エネルギー化を進めたりしています。省エネルギーは、自分たちでも取り組みます。例えば、こまめに部屋の電気を消したり、エアコンの設定温度を控えるにしたりすれば、電気を使う量を減らすことができます。また、食品や物を無駄に捨てなければ、ゴミを燃やすときに出る二酸化炭素の排出を減らせます。一人一人が意識を持って活動をすれば、海洋酸性化だけでなく、地球温暖化も止めることができます。

そのため、先ほど言った対策はもちろん、他にも対策を練って、少しでも、二酸化炭素を出さない取り組みをしていきたいです。そして今、学校の授業で取り組んでいる気候変動の学習に役立てて、クラス一丸となって活動して行きたいです。

\* 高学年部門 \*

佳作

くらしの安心・安全のために

富山市立光陽小学校 五年

山口 やまぐち 真季 まき

最近、日本各地で、災害が多く起きています、感じ  
ていました。そこで私たちは、総合的な学習の時間に、  
防災設備について、調べることにしました。

まず、家の中にある防災設備を調べました。家には、  
火を消すための消火器や、火災が発生したことを知ら

せる火災報知器がありました。二つとも、火災が起き  
たときに、役立つ便利なものです。また、ひなん生活  
になったときに備え、水や非常食がありました。てい  
電になったときのために、かい中電とうもありました。  
たくさんのお備えがあるので、災害が起きても、少しは  
安心できると思いました。

次に、学校の中にある防災設備を調べました。学校  
には、家と同様に消火器がありました。

また、ひなん経路図もありました。これらは、校内  
に約二十つほどありました。他にも、火災報知器や  
非常口がありました。どこで災害が起きても、ひなん  
できるように対策がしてあり、安心しました。

調べるはん囲を広げ、光陽地区内の設備を調べまし  
た。学校周辺の根塚町や新根塚町、二口町には、消火  
器や消火せんなどの火を消すためのものがあり、いろ  
いろな場所にたくさん散らばっていました。人が多く

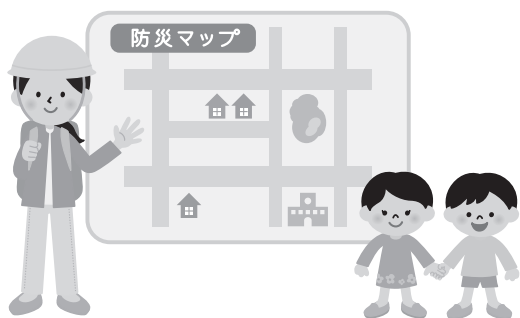
住むそれらの町は、火災が起きやすいことから、たくさんさんの消火設備があると思えました。ガソリンスタンドには、七本もの消火器がありました。

また、光陽小をふくめ、たくさんさんの公園や公民館がひなん所となっていました。とくに、二口町や黒瀬町に多くありました。ひなん所が多い地域は、災害が起きた場所によってひなん所を変えることができるので、早くひなんをすることができます。だから、他の地区にもひなん所が増えてほしいです。

さらに、光陽小の周りには、防災井戸やきん急給水場など、水が出なくなったときのための設備がありました。それらの設備があることで、断水したときにも水が使えるので、とても助かります。しかし、それらの設備は、防火設備などと比べて数が少なく、災害が起きたときに、水が不足するかもしれないので、増えてほしいです。

調べた結果、私たちの周りには、たくさんさんの防災設備があり、災害からくらしを守っていることが分かりました。学校やまちの安心・安全をつくろうとしてきた、地域の人に感謝します。

私たちは防災設備についてもっと知り、いつ災害が起きてても、周りの人と協力して、自分や周りの人を守れるようにしたいです。



## ◆募集要項

### ★応募対象

富山県内の小学生

### ★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について知ったこと、調べたこと
- ② 清流を守る活動と人々
- ③ 水と人間の暮らしの関わり
- ④ 住んでいる地域の環境、自然について
- ⑤ 生き物とのふれあい体験
- ⑥ 山や川・海とのふれあい体験
- ⑦ 水や食の安全について
- ⑧ 学校・学級で取り組んでいる環境問題
- ⑨ 個人・地域で取り組んでいる環境問題

※ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。

(例えば、海洋汚染・地球温暖化・大気汚染・自然災害・健康被害など。)

### ★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下のとおりです。

小学校1・2年生	400字詰原稿用紙	800字以内
小学校3・4年生	400字詰原稿用紙	1000字以内
小学校5・6年生	400字詰原稿用紙	1200字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学

校名、学年、氏名(ふりがな)を明記し、本文は4行目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめてください。

- ④ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限りませす。
- ⑤ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。
- ⑥ 応募作品は、郵送でお願いします。個人でも応募できます。学校・学級でまとめて応募する場合は、応募者名の一覧(学年、題名記載)と担任または担当者のお名前を書いたものを同封してください。
- ⑦ 応募作品の返却は原則行いません。

### ★応募期間

2023年7月1日～10月20日

### ★賞の種類

(応募する賞を明記する必要はありません。審査委員会で適切に判断します。)

- A) 清流環境歴史賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- B) 清流環境体験賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- C) 清流環境科学賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- D) 清流環境奨励賞(がんばって応募してくれた学校・学級)
  - ① 学校賞(各学年で在籍の7割以上が応募)
  - ② 学級賞(在籍児童の7割以上が応募)

## ★表彰

- ① 小学校1・2年生の部(低学年)、3・4年生の部(中学年)、5・6年生の部(高学年)の歴史賞、体験賞、科学賞毎に、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考します。
- ② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞(図書カード5千円分)を贈ります。
- ③ 優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞(図書カード3千円分)を贈ります。
- ④ 佳作受賞者には表彰状と副賞(図書カード1千円分)を贈ります。
- ⑤ 清流環境奨励賞を受賞の学校には表彰状と盾、副賞(図書カード1万円分)、学級には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。
- ⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へイタイイタイ病に関係した方々(語り部等)を派遣して公害・環境教育のお役に立ちたいと思います。
- ⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

## ★その他

- ① 作品は清流環境作文コンクール審査委員会で選考いたします。
- ② 選考結果は2024年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2024年2月を予定しています。
- ③ 個人情報の取扱い  
応募の際に提供いただく個人情報は、以下に掲げる事項に必要な範囲で使用します。

- ・本コンクールの運営(外部審査員への提供を含む。)
  - ・受賞作品の発表
  - ・当財団が行う事業全般についての連絡
- ④ 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合に、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ及び当財団が適当と考える場所(富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等)において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には、「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けたい」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ写し等を当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。
  - ⑤ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。
  - ⑥ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文(氏名、所属等特定の応募者を識別することができる情報は含みません)について、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。研究・教育利用規約については、当財団までお問い合わせください。
  - ⑦ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。
  - ⑧ 入賞作品は、文集掲載時に全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2023 年度  
第 6 回 清流環境作文コンクール  
受賞作品集

---

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会  
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684  
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23  
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2024 年 2 月 25 日



